

地域別・キャリア別にみた移住創業者の実態 ～「2020年度起業と起業意識に関する調査（特別調査）」結果から～

| | | |
|-----|--------------|----|
| I | 調査目的と実施要領等 | 1 |
| II | 調査結果 | |
| 1 | 回答者の属性 | 3 |
| 2 | 移住創業の経緯 | 5 |
| 3 | 事業の概要 | 9 |
| 4 | 創業の準備 | 12 |
| 5 | 事業における働き方 | 16 |
| 6 | 移住した地域との関わり方 | 18 |
| 7 | 事業のパフォーマンス | 20 |
| 8 | 地方や移住創業への関心 | 26 |
| III | まとめ | 27 |

<お問い合わせ先>
日本政策金融公庫 総合研究所
小企業研究第一グループ
TEL 03-3270-1687
担当 桑本、青木

I 調査目的と実施要領等

1 調査目的

東京圏一極集中の是正や地域活性化の解決策として地方移住への期待が高まっているが、地方ほど雇用の機会は少なく、そこに創業の意義がある。最近ではローカル志向といったライフスタイルの多様化や、情報通信技術の進歩に伴う働き方の変化、国や自治体によるさまざまな支援によって、地方移住に関心を示す人も増えている。しかし、移住先の経済規模や事業環境によっては、円滑な創業や安定的な事業継続が困難になることもあるだろう。

わが国では、移住創業に関する定量的な調査はまだ少ない。そこで、本調査ではインターネットアンケートを用いて移住創業した人を全国から抽出し、その実態や取り組みを調べる。分析軸としては、移住先地域の人口規模や移住創業者の移住先との関係に着目する。

2 実施要領

- (1) 調査時点 2021年2月
- (2) 調査対象 全国の18歳から69歳までの男女
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート（事前調査と詳細調査の2段階）
 インターネット調査会社から登録モニターに電子メールで依頼し、ウェブサイト上の調査画面に回答者自身が回答を入力
 - ① 事前調査 … 本調査の調査対象に該当するかどうか等を判別するための簡易なアンケート
 - ② 詳細調査 … 調査対象の該当者に対して行う詳細なアンケート

(4) 調査対象の定義と回収数

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|--|-------|--|-------|------------------|-------------------|-------------|-------------|
| 現在の職業 | 自分で始めた事業を 経営している | 自 行 ま 宅 つ で か の ら い 距 事 業 場 を 所 | 1時間未満 | 現 住 在 み の 始 エ め た ア 年 に 齢 | 18歳以上 | 起 業 時 期 | 移住の3年前から 3年後まで | 移住創業者（489人） | |
| | | | | | | | 上記以外 | | |
| | | | 1時間以上 | | | | | | |
| | 事業を経営しておらず、 勤務している | 自 ま 宅 で か の ら 距 勤 務 先 | 1時間未満 | 現 に 年 住 在 住 の み エ 始 り め ア た | 18歳以上 | | | | 移住勤務者（378人） |
| | | | | | | | 18歳未満 | | |
| | | | 1時間以上 | | | | | | |

(注) 1 () 内は回収数を示す。

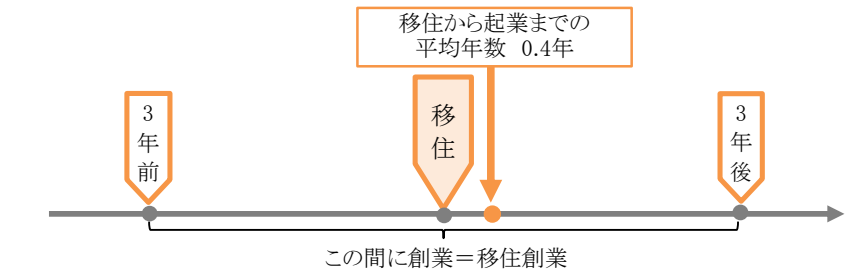
2 「移住創業者」「その他の創業者」は創業5年未満の人を対象とするが、「移住創業者」についてはサンプル確保のため、2015年以前に創業した人も対象にしている。その場合も、創業して5年以内のことについて尋ねている。

3 移住創業者の区分

～移住創業者のうち都市部から地方へ移住した人は少数～

- 本調査における移住創業者の移住から起業までの期間の平均は0.4年である（図-1）。
- 移住創業者のうち、現在のエリアを回答したのは476人であった。内訳は、都市部に住む人が324人、地方に住む人が152人（うち過疎地は19人）である。移住元・移住先地域ともに判別できる回答者466人のなかでは、地方から都市部へ移住した人が197人（42.3%）と最も多く、次いで地方から地方が124人（26.6%）、都市部から都市部が122人（26.2%）を占めている（表-1）。都市部から地方への移住は23人（4.9%）にとどまった。
- 移住創業者のうち、移住前に現在のエリアとゆかりがあった「キャリア移住」は57.5%に上る（図-2）。キャリアの内容としては、「生まれた」（18.0%）、「親（義理の親を含む）が住んでいる（いた）」（16.0%）、「勤務（パート・アルバイトを含む）をしていたことがある」（15.7%）の順に多い。

図-1 移住創業者の移住から起業の期間



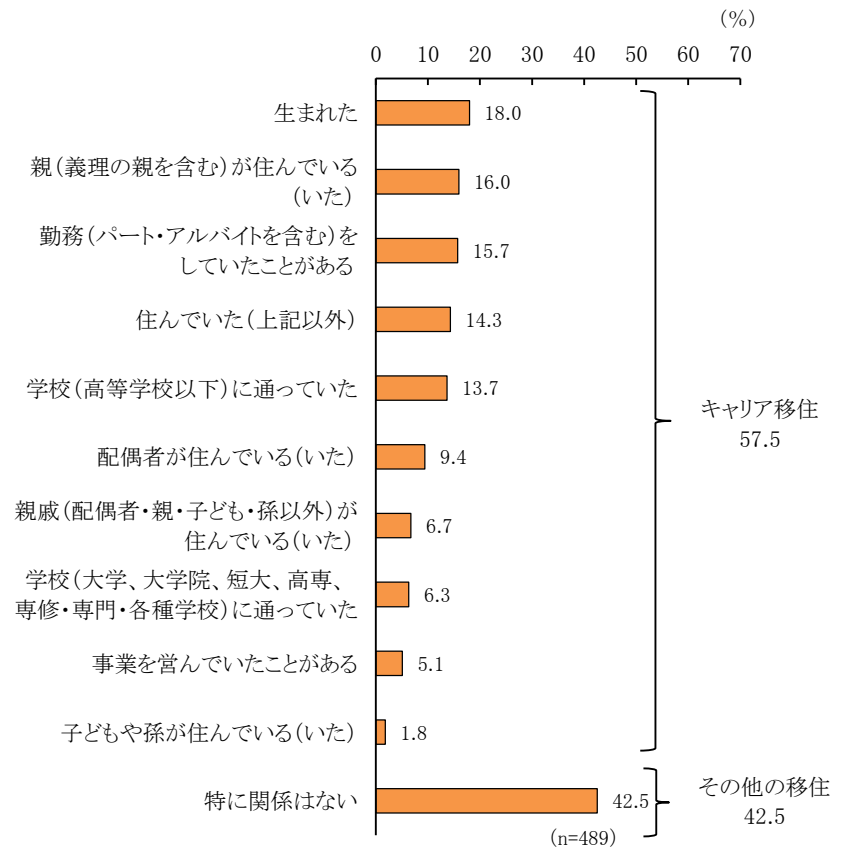
（注）移住前の創業は、のちに移住する先で創業しているケースであり、移住元で創業した事業を移住先で継続しているケースは含まない。

表-1 移住先と移住元の地域区分

| 移住元 \ 移住先 | （単位：人） | | |
|-----------|--------|-----|----|
| | 都市部 | 地方 | |
| 都市部 | 122 | 23 | 4 |
| 地方 | 197 | 124 | 15 |
| うち過疎地 | 18 | 6 | 1 |

- （注）1 移住先地域は郵便番号を尋ねて、過疎地は「過疎地域自立促進特別措置法」の指定する全部過疎の市町村と、一部過疎・みなし過疎市町村の合併前の全部過疎エリアを抽出している。一方、移住元地域は市町村名を尋ねており、移住先地域のように細かい分類をすることができない。そのため、移住元地域の過疎地は、同法による全部過疎とみなし過疎の市町村とする（以下同じ）。
- 2 移住先・移住元地域の都市部は、三大都市圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、岐阜県、三重県、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）および全国の20政令指定都市のうち（注）1による過疎地を除いたエリア。
- 3 無回答および移住元地域が海外の場合を除く。

図-2 現在のエリアにおける移住創業者のキャリア（複数回答）



II 調査結果

1 回答者の属性

～移住創業者と移住勤務者は、相対的に「女性」の割合が高い～

- 移住創業者、その他の創業者、移住勤務者、その他の勤務者の4類型について「女性」の割合をみると、移住勤務者で37.3%と最も高くなっている（図-3）。移住創業者（30.5%）は、その他の創業者（20.8%）に比べて約10ポイント高い。さらに、現在のエリアにゆかりがあるキャリア移住（33.8%）では、その他の移住（26.0%）に比べて「女性」の割合が高い。
- 年齢をみると、移住創業者はほかの類型に比べて「29歳以下」の割合（6.9%）は低めだが、「30歳代」（29.0%）、「40歳代」（32.1%）の割合は高い（図-4）。地域別にみた場合は、移住先が地方の創業者は、都市部の創業者に比べて「29歳以下」（3.7%）が少なく、「60歳代」（18.5%）が多い。

図-3 性別

(単位：%)

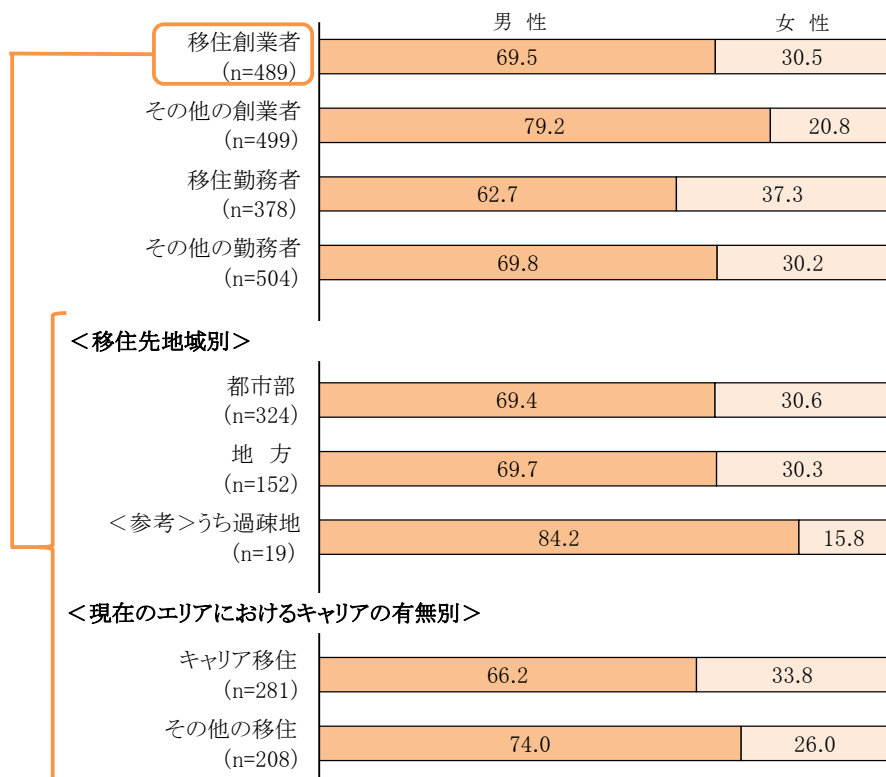
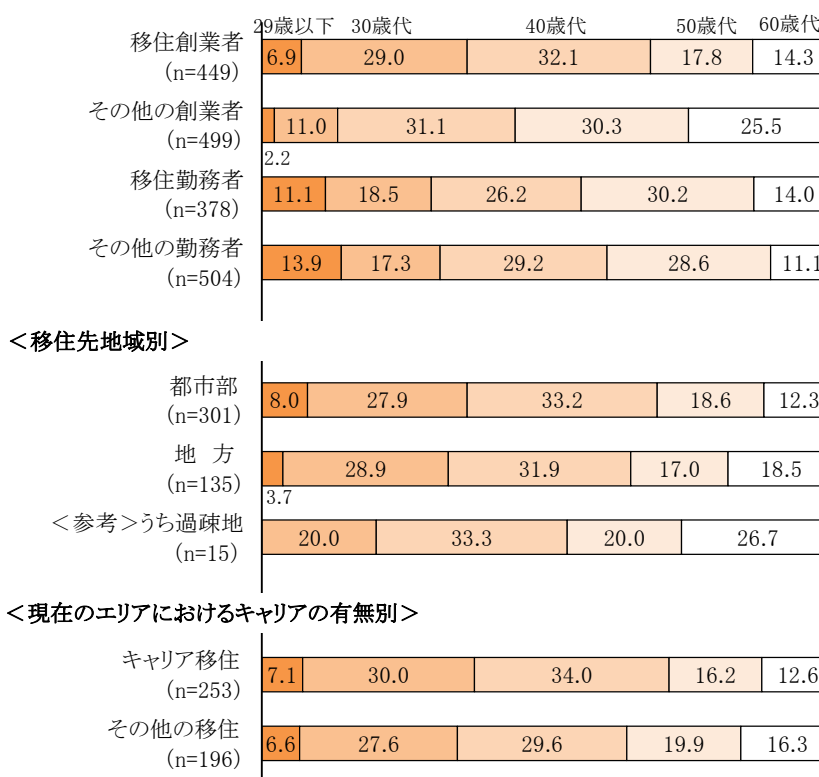


図-4 年齢

(単位：%)



(注) 1 移住先地域別は前掲表-1による区分に基づく（以下同じ）。

2 現在のエリアにおけるキャリアの有無別は前掲図-2による区分に基づく（以下同じ）。

3 構成比は四捨五入して表示しているため、合計しても100%にならない場合がある（以下同じ）。

(注) 年齢に関する集計は、移住創業者から創業5年以上の回答者を除いて行った。

～仕事において「私生活との両立」を重視する移住創業者が多い～

- 主たる家計維持者である割合は、移住創業者で77.7%と4類型のなかで最も高くなっている（図-5）。移住勤務者（75.9%）もその他の勤務者（66.5%）に比べて高い。移住創業者を現在のエリアにおけるキャリアの有無別にみると、キャリア移住では主たる家計維持者の割合が相対的に低くなっている。
- 移住創業者が仕事において最も重視することは、「私生活との両立」が37.4%と、「収入」（27.6%）や「仕事のやりがい」（35.0%）に比べて多い（図-6）。他方、その他の創業者では「仕事のやりがい」を重視する人が最も多く、移住勤務者とその他の勤務者では「収入」が最も多くなっている。また、地方の移住創業者のほうが都市部の移住創業者よりも「収入」を重視する人が少なく、「仕事のやりがい」を重視する人が多い。

図-5 主たる家計維持者か

(単位：%)

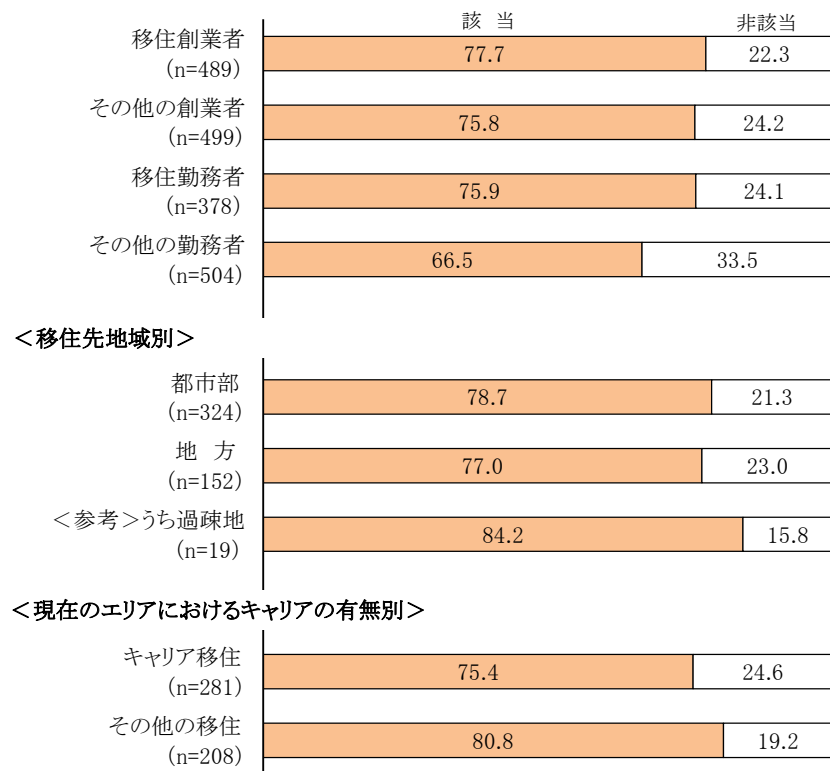
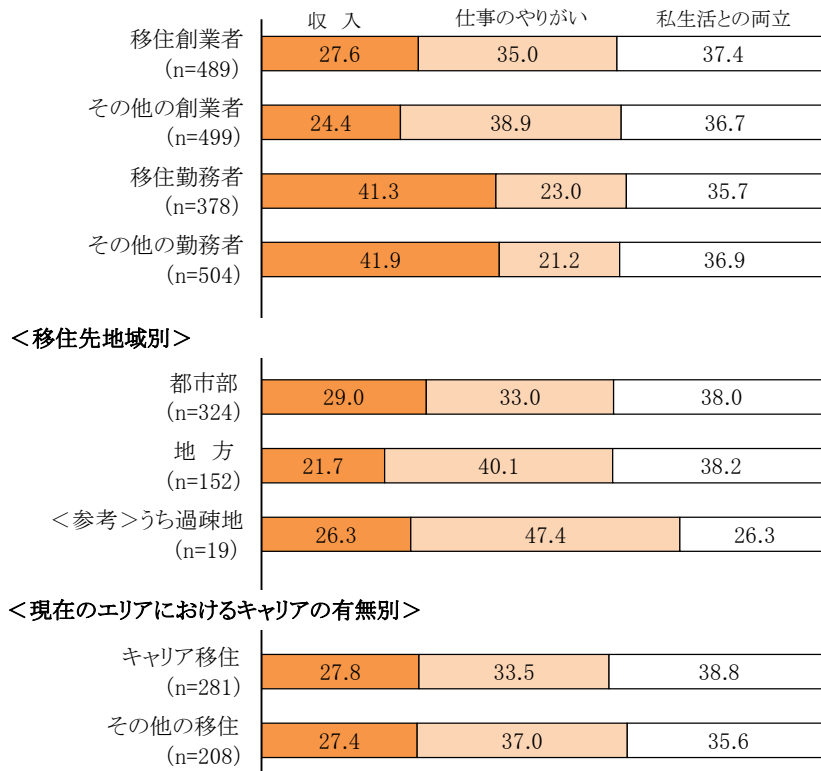


図-6 仕事において最も重視すること

(単位：%)



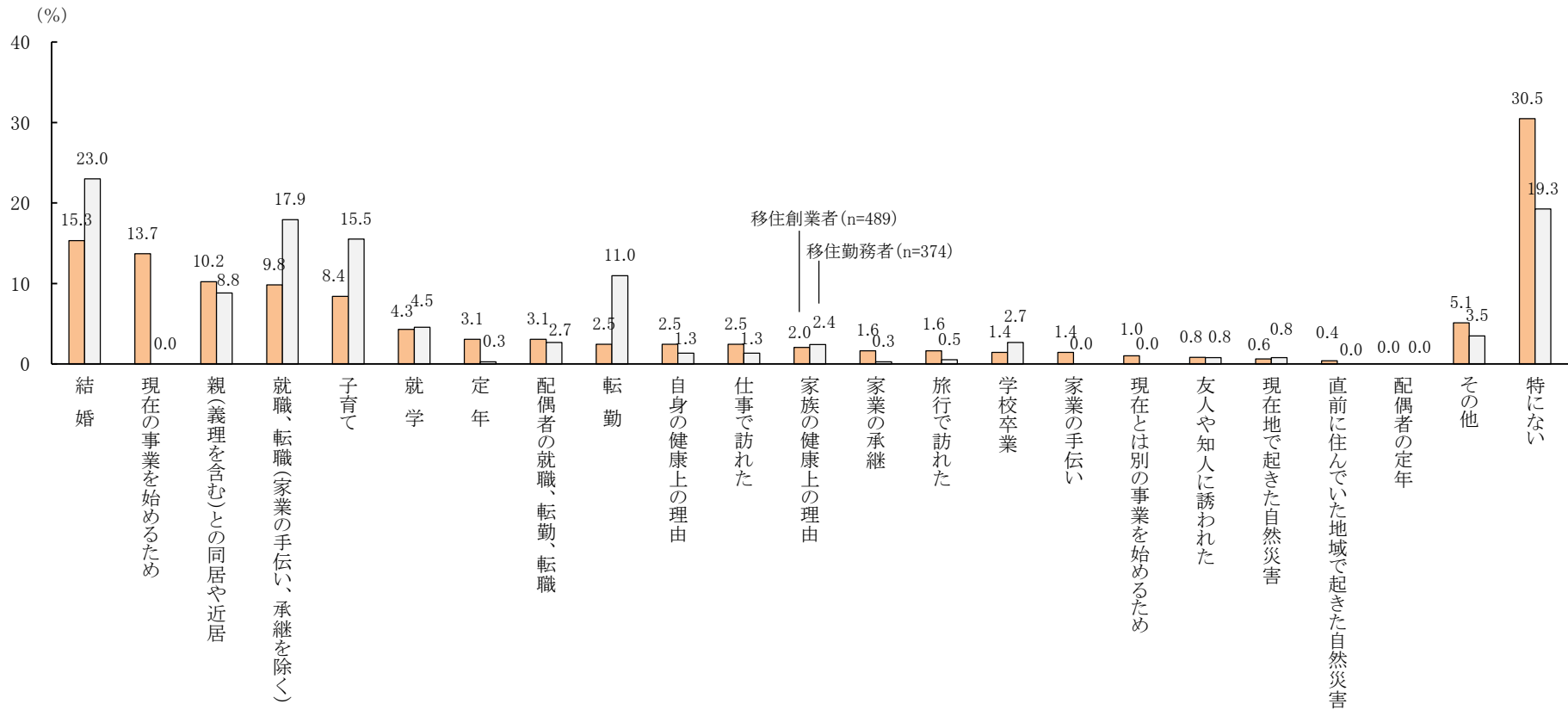
2 移住創業の経緯

～現在のエリアに移り住んだきっかけは、移住創業者、移住勤務者ともに「結婚」が多い～

- 移住創業者が現在のエリアに移り住んだきっかけは、「結婚」（15.3%）、「現在の事業を始めるため」（13.7%）、「親（義理を含む）との同居や近居」（10.2%）、「就職、転職（家業の手伝い、承継を除く）」（9.8%）などが多くなっている（図-7(1)）。
 移住勤務者は「結婚」（23.0%）のほか、「就職、転職（家業の手伝い、承継を除く）」（17.9%）、「子育て」（15.5%）、「転勤」（11.0%）などの回答割合が、移住創業者と比べて高い。

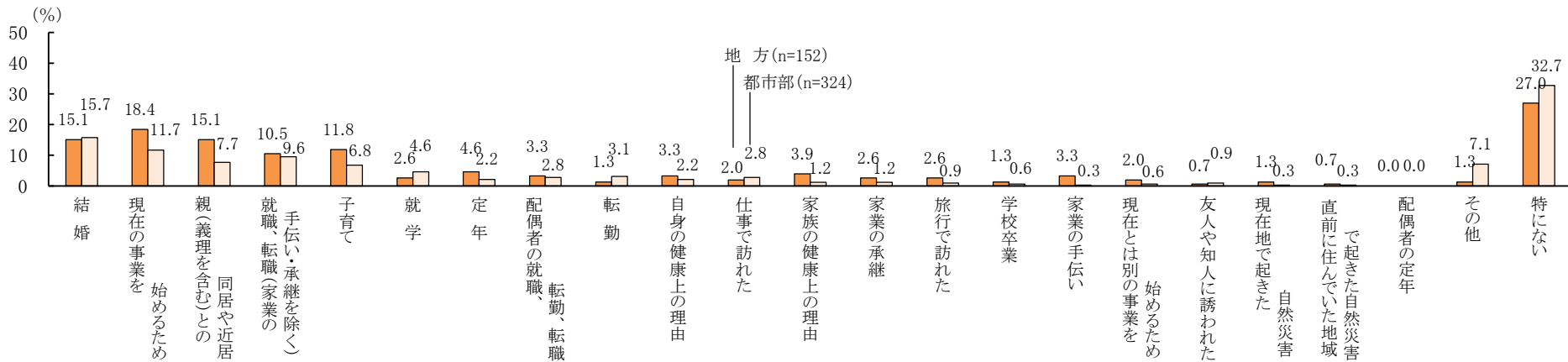
図-7 現在のエリアに移り住んだきっかけ（複数回答）

(1) 移住創業者・移住勤務者

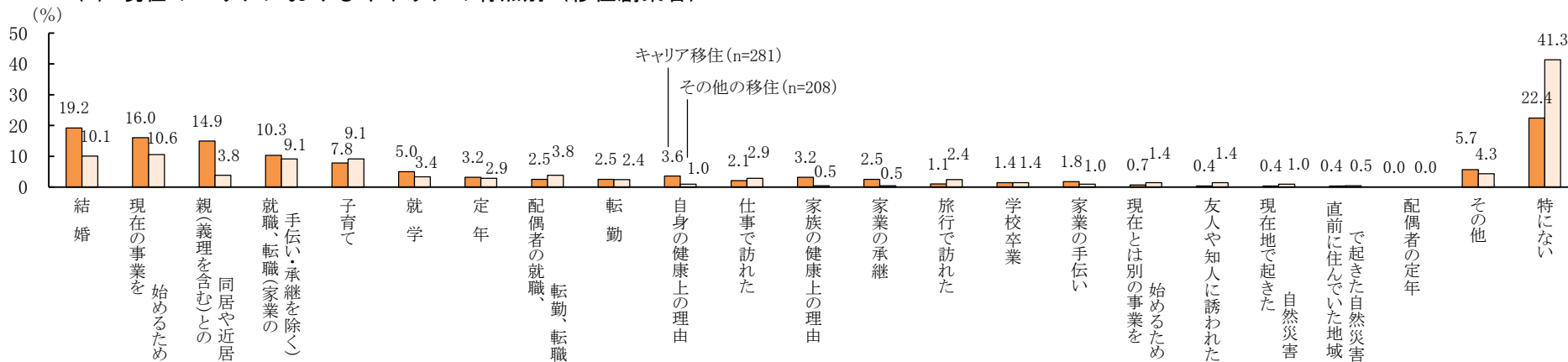


- 移住創業者について、移り住んだきっかけを移住先地域別にみると、地方では「現在の事業を始めるため」(18.4%)、「親(義理を含む)との同居や近居」(15.1%)、「子育て」(11.8%)などの割合が、都市部(順に11.7%、7.7%、6.8%)に比べて高い(同(2))。
- 移住創業者のキャリアの有無別にみると、キャリア移住では「結婚」(19.2%)や「現在の事業を始めるため」(16.0%)、「親(義理を含む)との同居や近居」(14.9%)が多くなっている(同(3))。その他の移住では、割合は低いものの「子育て」(9.1%)、「配偶者の就職、転勤、転職」(3.8%)などの回答がキャリア移住に比べて多くみられた。

(2) 移住先地域別(移住創業者)



(3) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別(移住創業者)

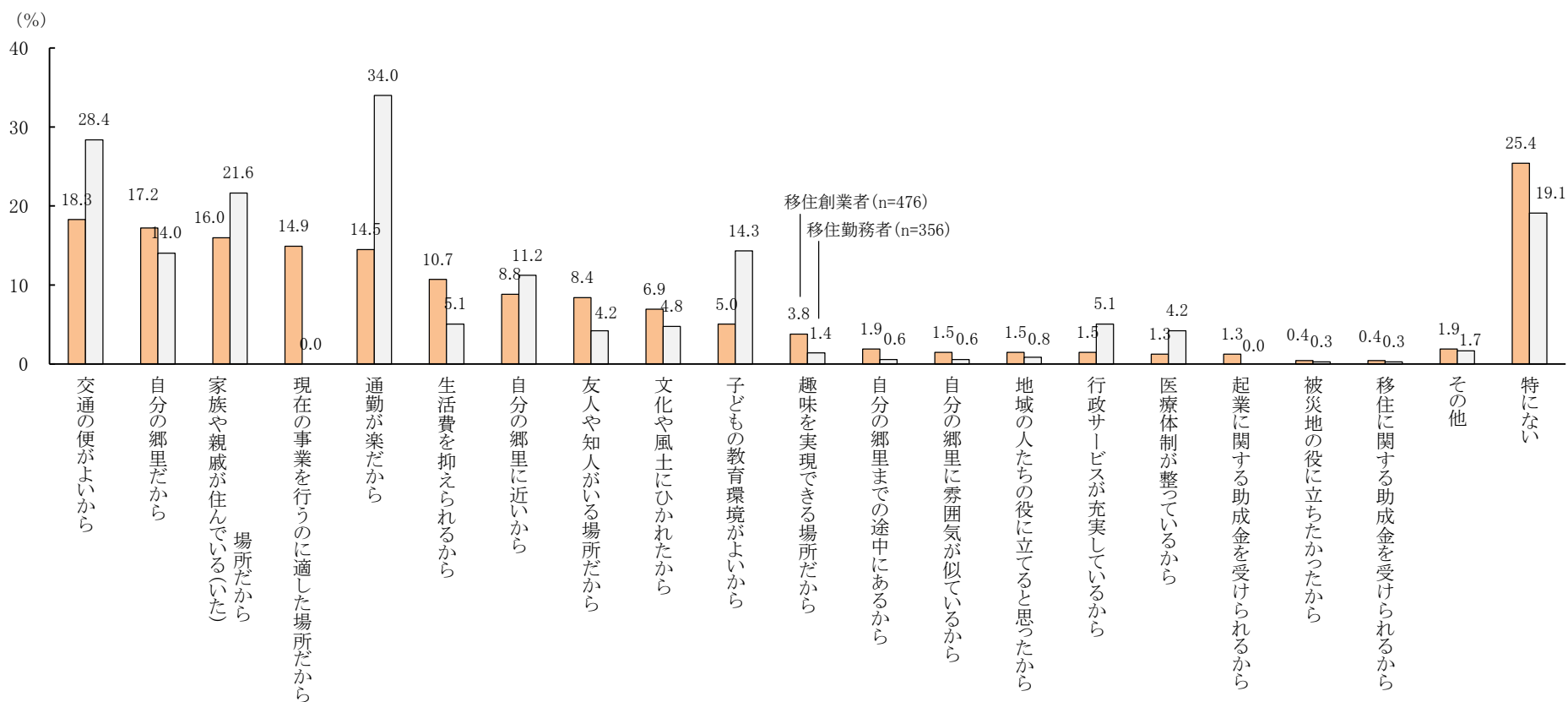


～移住創業者が現在のエリアを拠点に選んだ積極的な理由は「交通の便がよいから」「自分の郷里だから」～

- 移住創業者が現在のエリアを拠点に選んだ積極的な理由は、「交通の便がよいから」（18.3%）や「自分の郷里だから」（17.2%）、「家族や親戚が住んでいる（いた）場所だから」（16.0%）が多い（図-8(1)）。
 移住勤務者では「通勤が楽だから」（34.0%）が最も多く、「交通の便がよいから」（28.4%）、「家族や親戚が住んでいる（いた）場所だから」（21.6%）が続く。いずれも回答割合は移住創業者の場合を上回る。

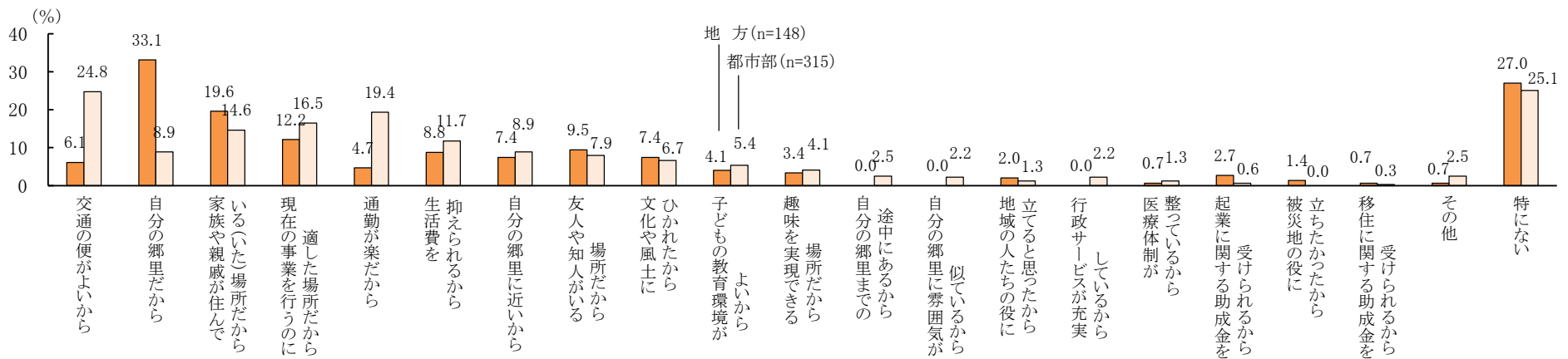
図-8 現在のエリアを拠点に選んだ積極的な理由（複数回答）

(1) 移住創業者・移住勤務者

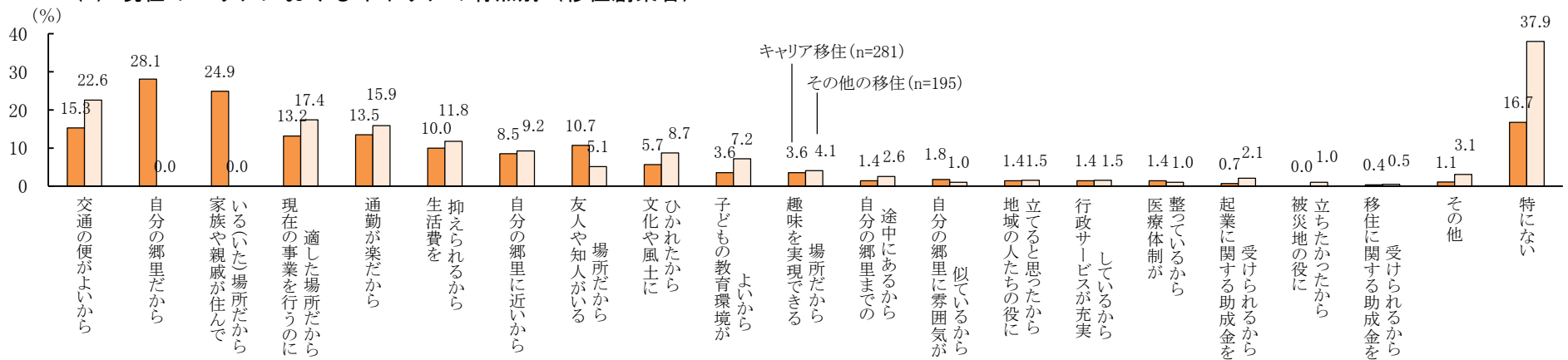


- 移住創業者について、現在のエリアを拠点に選んだ理由を地域別にみると、地方への移住者では「自分の郷里だから」が33.1%と最も多く、次に「家族や親戚が住んでいる（いた）場所だから」（19.6%）となっている（同(2)）。一方、都市部では「交通の便がよいから」（24.8%）が1番目、「通勤が楽だから」（19.4%）が2番目に多い。3番目に多いのは地方、都市部ともに「現在の事業を行うのに適した場所だから」（順に12.2%、16.5%）であるが、回答割合は都市部のほうが4.3ポイント高い。
- キャリア移住では「自分の郷里だから」（28.1%）、「家族や親戚が住んでいる（いた）場所だから」（24.9%）が多い（同(3)）。その他の移住では、キャリア移住に比べて「交通の便がよいから」（22.6%）、「現在の事業を行うのに適した場所だから」（17.4%）、「文化や風土にひかれたから」（8.7%）などの回答が多い。

(2) 移住先地域別（移住創業者）



(3) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別（移住創業者）



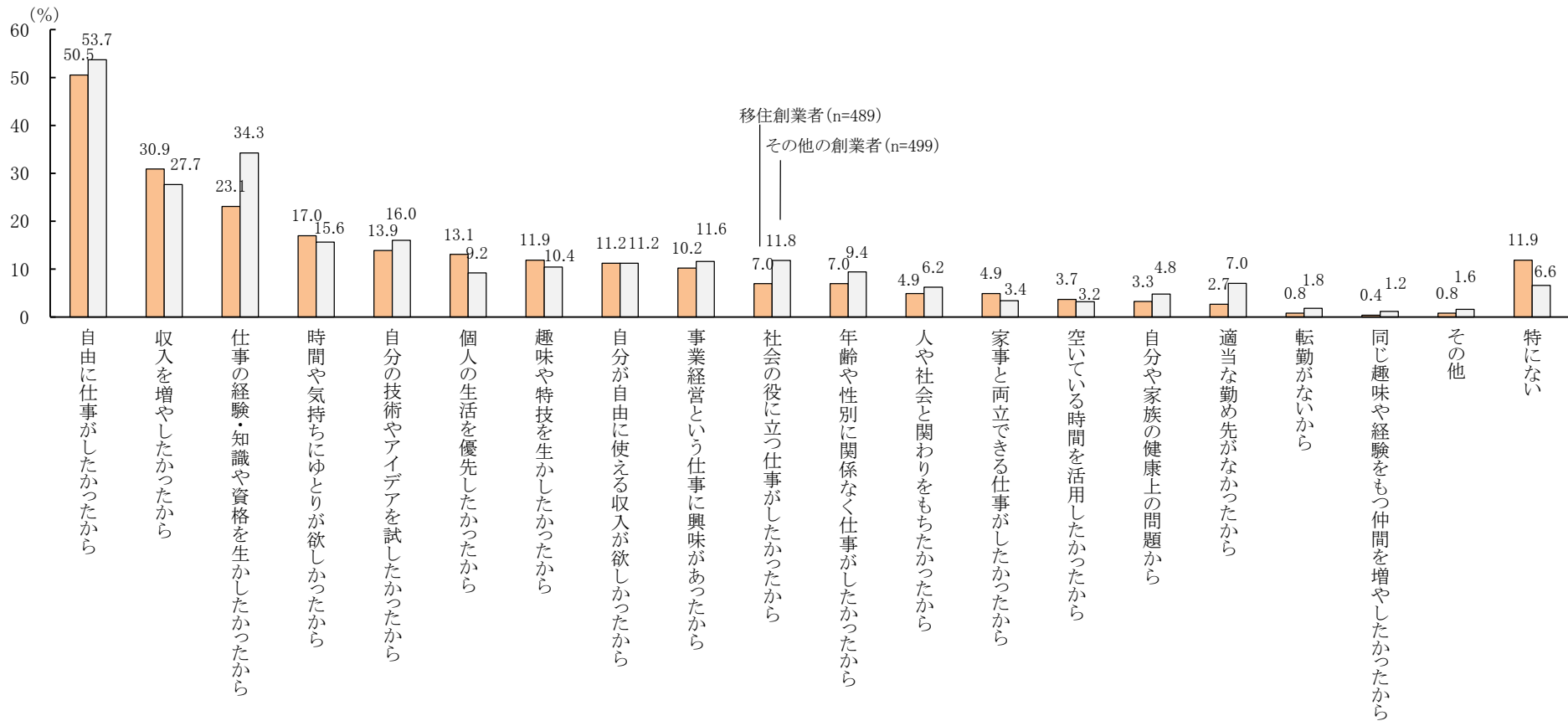
3 事業の概要

～移住者、その他の創業者ともに「自由に仕事がしたかったから」が最も大きな開業動機～

○ 開業動機は、移住創業者、その他の創業者ともに「自由に仕事がしたかったから」（順に50.5%、53.7%）が最も多い（図-9(1)）。2番目に多い動機は、移住創業者では「収入を増やしたかったから」（30.9%）で、その他の創業者では「仕事の経験、知識や資格を生かしたかったから」（34.3%）となっている。
 そのほかの回答をみると、移住創業者では「時間や気持ちにゆとりが欲しかったから」（17.0%）や「個人の生活を優先したかったから」（13.1%）、「趣味や特技を生かしたかったから」（11.9%）などの割合が、その他の創業者に比べて高い。

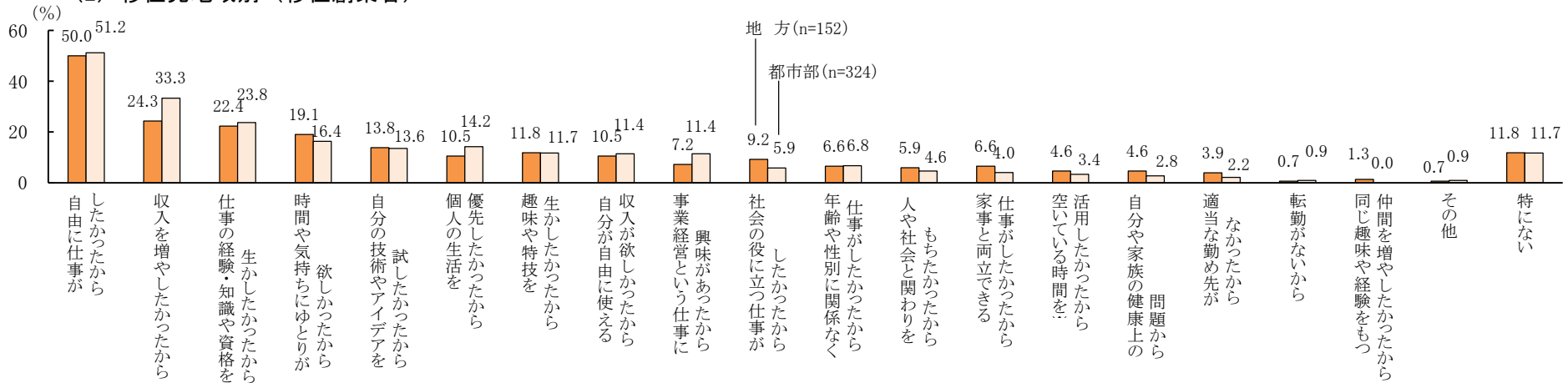
図-9 開業動機（三つまでの複数回答）

(1) 移住創業者・その他の創業者

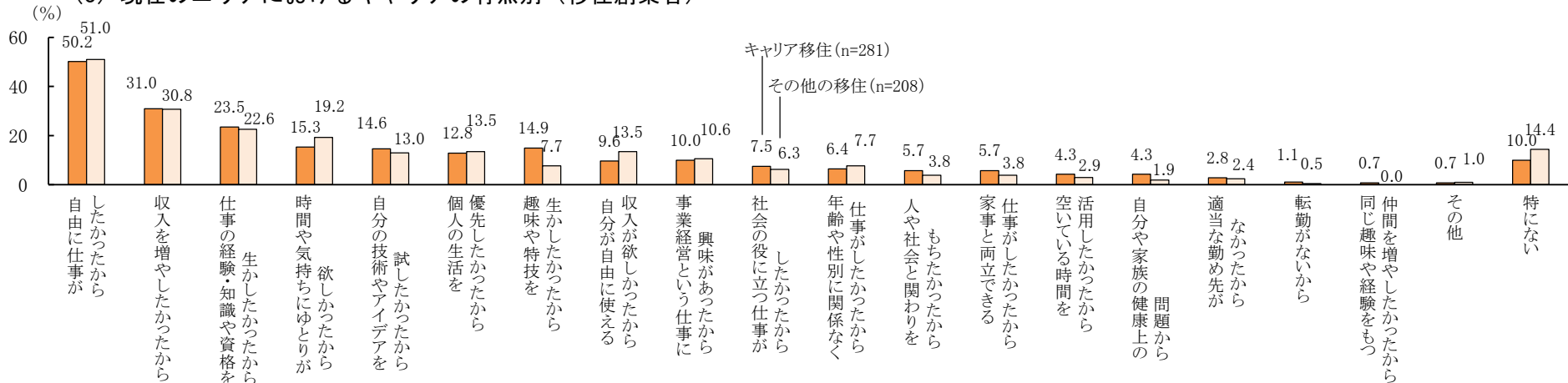


- 移住創業者の開業動機を移住先地域別にみると、地方では「時間や気持ちにゆとりが欲しかったから」(19.1%)、「社会の役に立つ仕事をしたかったから」(9.2%)、「家事と両立できる仕事をしたかったから」(6.6%)などの回答割合が相対的に高い(同(2))。都市部では「収入を増やしたかったから」(33.3%)、「個人の生活を優先したかったから」(14.2%)、「事業経営という仕事に興味があったから」(11.4%)などが高い。
- キャリアの有無別にみると、キャリア移住では「趣味や特技を生かしたかったから」(14.9%)、「自分や家族の健康上の問題から」(4.3%)などの回答割合が相対的に高い(同(3))。その他の移住では、「時間や気持ちにゆとりが欲しかったから」(19.2%)、「自分が自由に使える収入が欲しかったから」(13.5%)などが高い。

(2) 移住先地域別 (移住創業者)



(3) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別 (移住創業者)



～移住創業者の業種は「個人向けサービス業」の割合が最も高い～

○ 業種をみると、移住創業者では「個人向けサービス業」（22.3%）の割合が最も高く、次いで「事業所向けサービス業」（17.6%）となっている（表-2）。その他の創業者と比べると、「個人向けサービス業」のほか、「情報通信業」（10.2%）、「小売業」（8.2%）などの割合がやや高い。

移住創業者の業種を移住先地域別に比べると、地方では「製造業」（7.2%）や「小売業」（10.5%）の割合が高く、都市部では「情報通信業」（12.0%）や「個人向けサービス業」（23.8%）の割合が高い。

キャリアの有無別にみると、キャリア移住では「飲食店・宿泊業」（4.6%）や「医療・福祉」（7.1%）の割合が相対的に高く、その他の移住では「建設業」（7.7%）や「事業所向けサービス業」（18.8%）が高くなっている。

表-2 業 種

（単位：％）

| | 移住創業者 (n=489) | 移住先地域別 | | | 現在のエリアにおけるキャリアの有無別 | | その他の創業者 (n=499) |
|------------|------------------|----------------|----------------|-------------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| | | 都市部 (n=324) | 地 方 (n=152) | <参考>過疎地 (n=19) | キャリア移住 (n=281) | その他の移住 (n=208) | |
| 建設業 | 5.3 | 4.9 | 5.3 | 5.3 | 3.6 | 7.7 | 7.6 |
| 製造業 | 5.1 | 4.0 | 7.2 | 0.0 | 4.6 | 5.8 | 4.6 |
| 情報通信業 | 10.2 | 12.0 | 6.6 | 0.0 | 10.0 | 10.6 | 8.2 |
| 運輸業 | 3.1 | 3.1 | 3.3 | 5.3 | 2.8 | 3.4 | 6.0 |
| 卸売業 | 2.7 | 2.2 | 3.9 | 0.0 | 2.8 | 2.4 | 3.8 |
| 小売業 | 8.2 | 7.1 | 10.5 | 5.3 | 8.2 | 8.2 | 5.8 |
| 飲食店・宿泊業 | 3.7 | 3.7 | 3.9 | 0.0 | 4.6 | 2.4 | 3.6 |
| 医療・福祉 | 5.9 | 5.6 | 6.6 | 15.8 | 7.1 | 4.3 | 4.2 |
| 教育・学習支援業 | 4.9 | 5.9 | 3.3 | 5.3 | 5.3 | 4.3 | 5.0 |
| 個人向けサービス業 | 22.3 | 23.8 | 19.7 | 10.5 | 23.1 | 21.2 | 18.2 |
| 事業所向けサービス業 | 17.6 | 16.7 | 18.4 | 15.8 | 16.7 | 18.8 | 22.8 |
| 不動産業、物品賃貸業 | 6.1 | 6.8 | 5.3 | 10.5 | 5.7 | 6.7 | 5.8 |
| その他 | 4.9 | 4.3 | 5.9 | 26.3 | 5.3 | 4.3 | 4.2 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

(注) 1 事業の内容に最も近いと思う業種を尋ねている。

2 「持ち帰り・配達飲食サービス業」は、「小売業」に含む。

4 創業の準備

～1人で開業する移住創業者が8割超～

- 開業時の従業員規模は、移住創業者、その他の創業者ともに「1人（本人のみ）」の割合が8割を超える（図-10）。移住創業者を地域別・キャリアの有無別にみても、「1人（本人のみ）」が大半を占める。
- 開業費用は「かからなかった」割合が移住創業者、その他の創業者ともに2割超に上り、「50万円未満」と合わせるとともに半数以上を占める（図-11）。移住創業者を地域別にみると、地方のほうが都市部よりもやや開業費用が高い層が多くなっている。

図-10 開業時の従業員規模

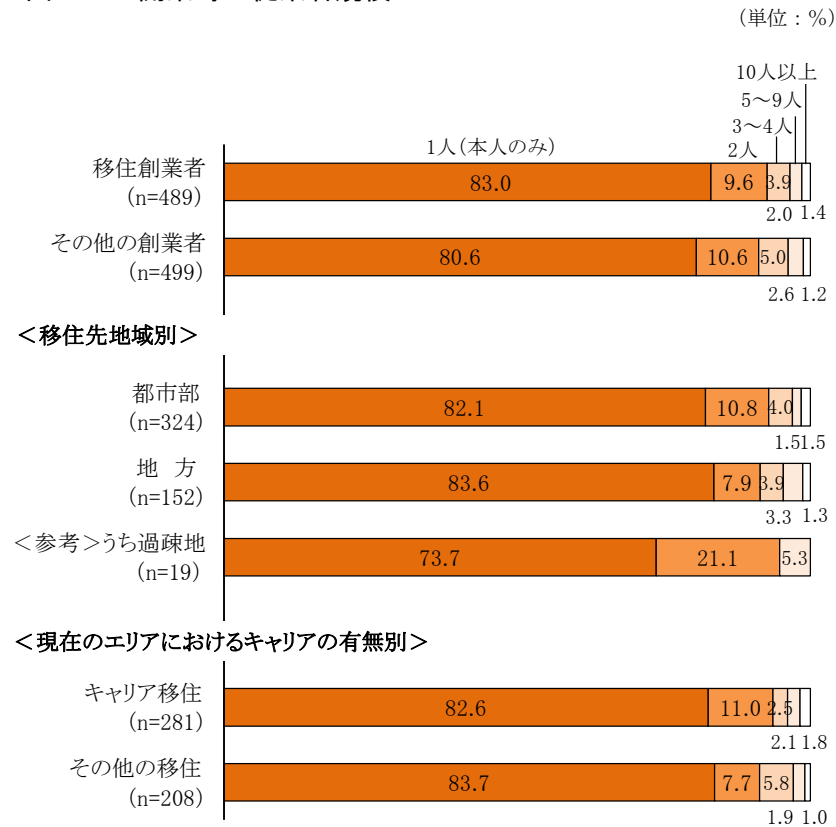
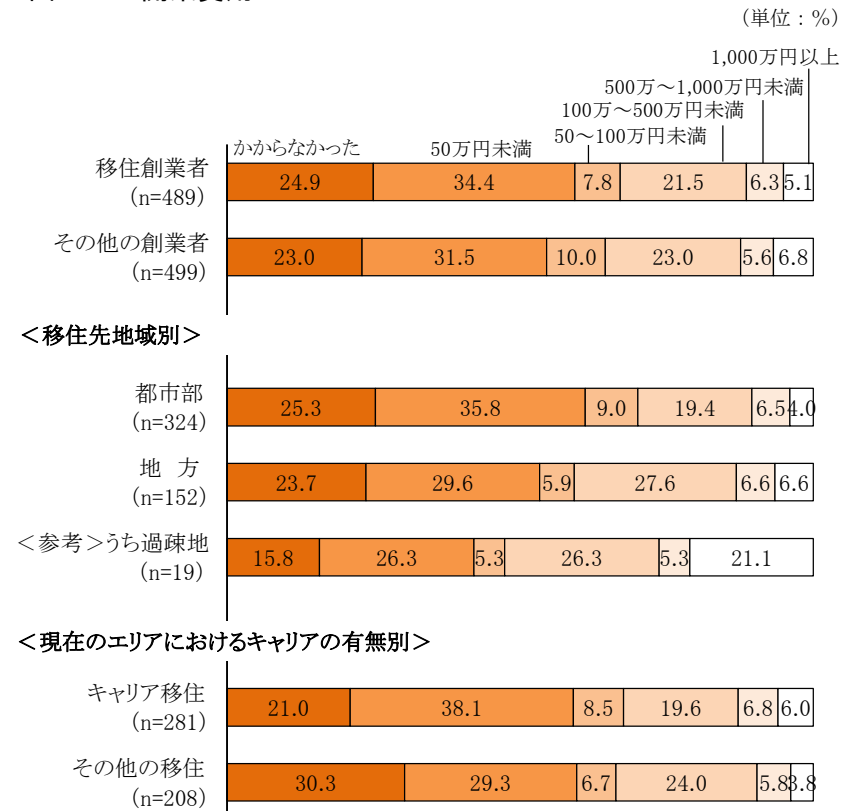


図-11 開業費用

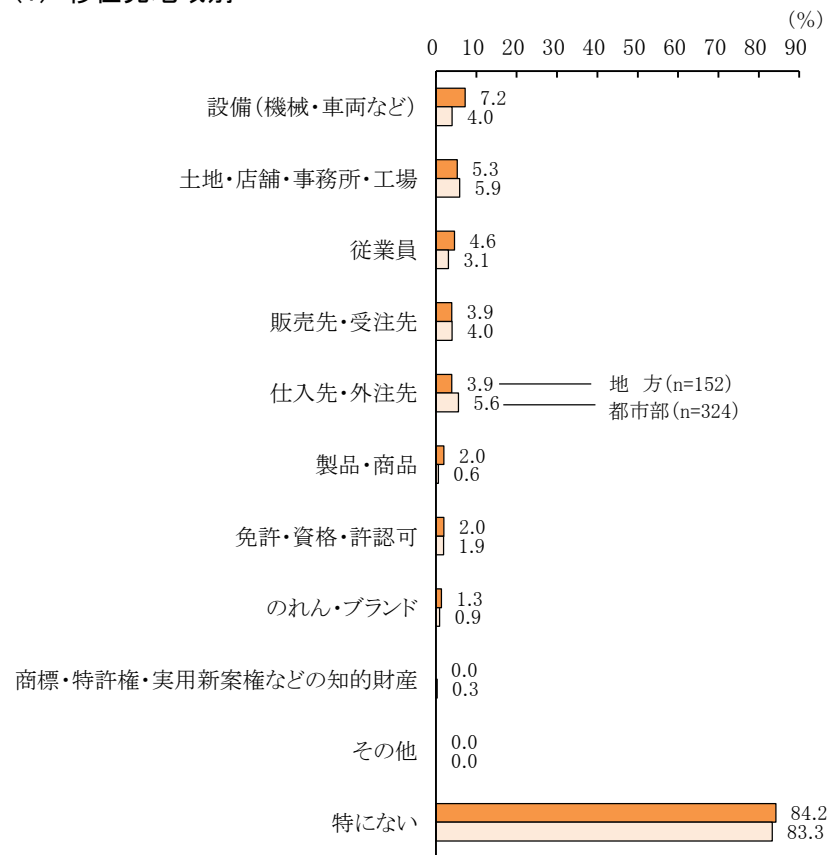


～移住創業に当たりほかの企業から引き継いだものは「特にない」が大半～

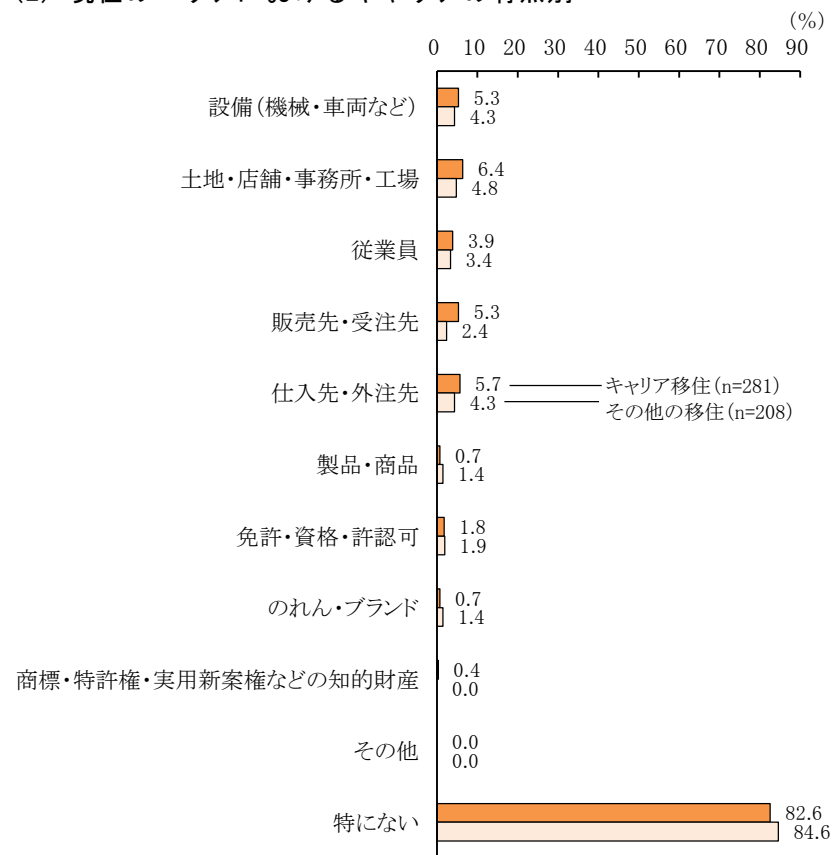
○ 移住創業者が移住創業に当たりほかの企業から引き継いだものは、地域別・キャリアの有無別のいずれでも「特にない」との回答が8割以上を占める（図-12）。そのほかの回答について地域別にみると、地方では「設備（機械・車両など）」（7.2%）が最も多く、都市部では「土地・店舗・事務所・工場」（5.9%）が多い。キャリアの有無別では、キャリア移住ではほとんどの項目でその他の移住より回答割合が高くなっている。

図-12 移住創業に当たりほかの企業から引き継いだもの（複数回答）

(1) 移住先地域別



(2) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別



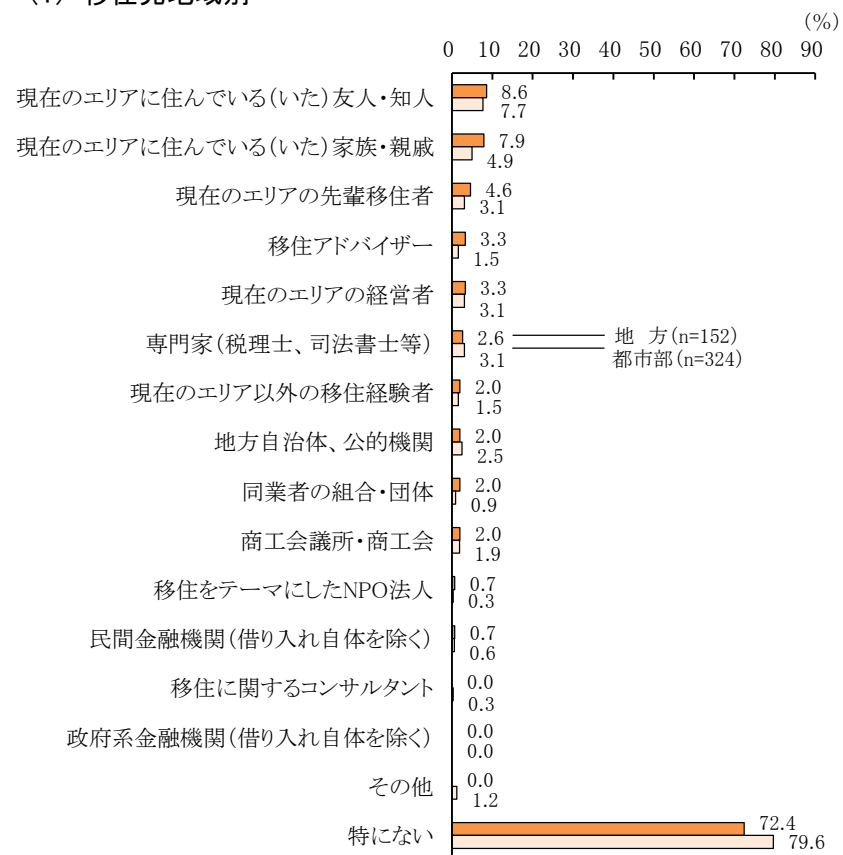
(注) 有償・無償は問わない。ほかの企業には、倒産や廃業した企業を含む。

～移住創業に当たり相談した相手は「特にない」が大半～

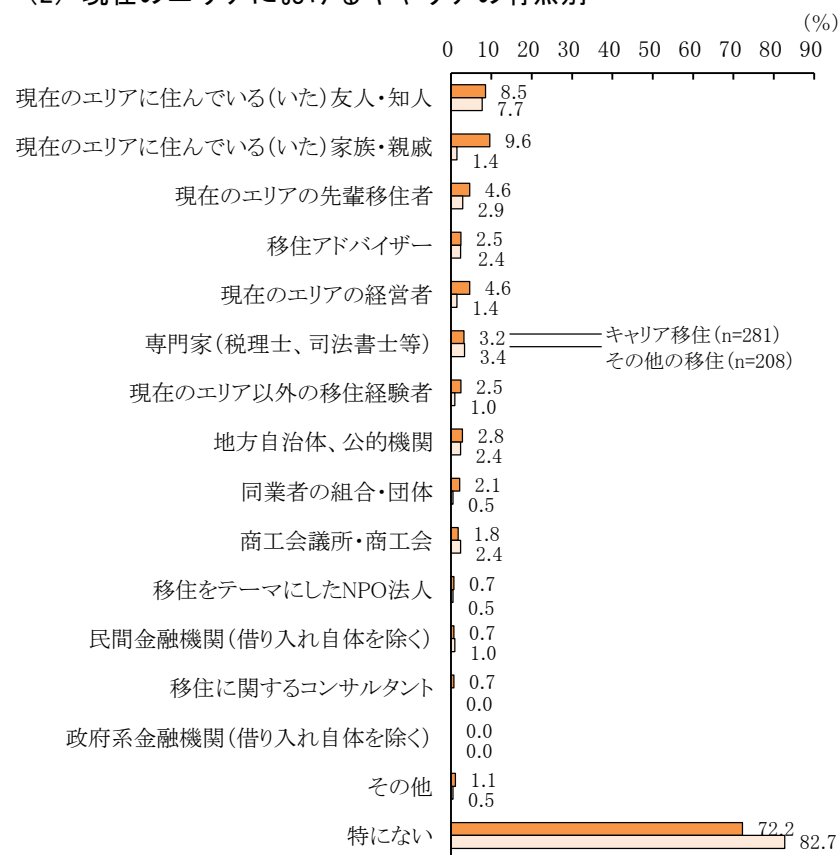
○ 移住創業者が移住創業に当たり相談した相手は、地域別・キャリアの有無別のいずれでも「特にない」との回答が7割以上と多い（図-13）。特に、都市部（79.6%）とその他の移住（82.7%）で多くなっている。そのほかの回答をみると、移住先が地方の場合や移住先にキャリアがある場合は、「現在のエリアに住んでいる（いた）友人・知人」「現在のエリアに住んでいる（いた）家族・親戚」との回答が比較的多い。

図-13 移住創業に当たり相談した相手（複数回答）

(1) 移住先地域別



(2) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別

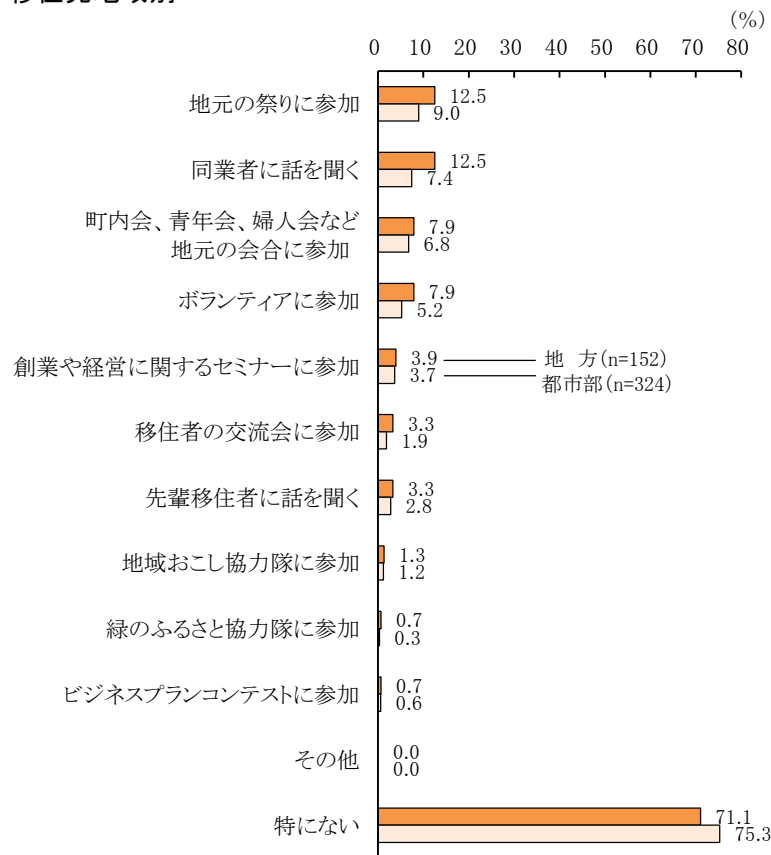


～地方での移住創業やキャリア移住のほうが、移住前に現在のエリアで行ったことがある人の割合が高い～

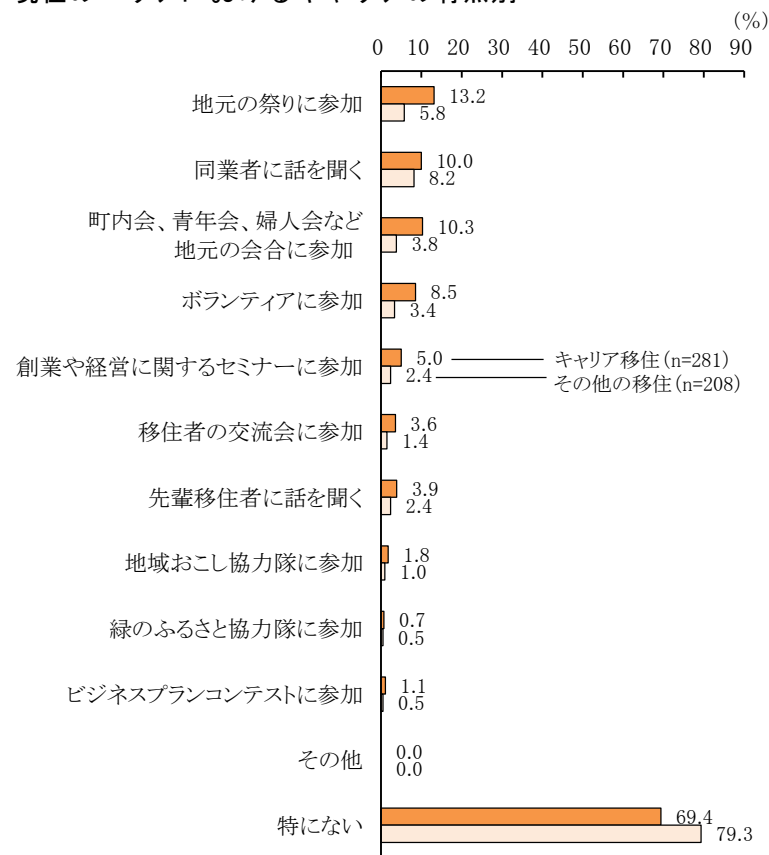
○ 移住創業者が移住前に現在のエリアで行ったことを尋ねた結果も、「特にない」との回答が多い（図-14）。なかでも移住先地域が都市部の場合や現在のエリアにおいてキャリアがない場合に「特にない」割合が高くなっている（順に75.3%、79.3%）。
 そのほかの回答を地域別にみると、地方では「地元の祭りに参加」「同業者に話を聞く」（ともに12.5%）の割合が高いほか、すべての選択肢で都市部に比べて回答割合が高くなっている。キャリアの有無別でみると、キャリア移住はその他の移住よりもすべての選択肢で回答割合が高い。特に「地元の祭りに参加」（13.2%）や「町内会、青年会、婦人会など地元の会合に参加」（10.3%）の割合が相対的に高くなっている。

図-14 現在のエリアで移住する前に行ったこと（複数回答）

(1) 移住先地域別



(2) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別



5 事業における働き方

～移住創業者、その他の創業者ともに事業に充てる時間が「35時間未満」の人が約半数～

- 事業に充てる1週間当たりの時間は、「35時間未満」の割合が移住創業者（46.6%）、その他の創業者（45.3%）ともに半数近くに上る（図-15）。移住創業者をキャリアの有無別に比べると、キャリア移住のほうが「35時間未満」の割合（49.5%）が高くなっている。
- 「勤務している」割合は、移住創業者は5.1%とその他の創業者（3.6%）に比べて高いものの、「勤務していない」が94.9%と大半を占める（図-16）。事業に充てる時間は短い傾向にあるものの、勤務者が副業として事業を経営しているケースは多くないということである。地域別・キャリア別にみても、その傾向は変わらない。

図-15 事業に充てる時間（1週間当たり）

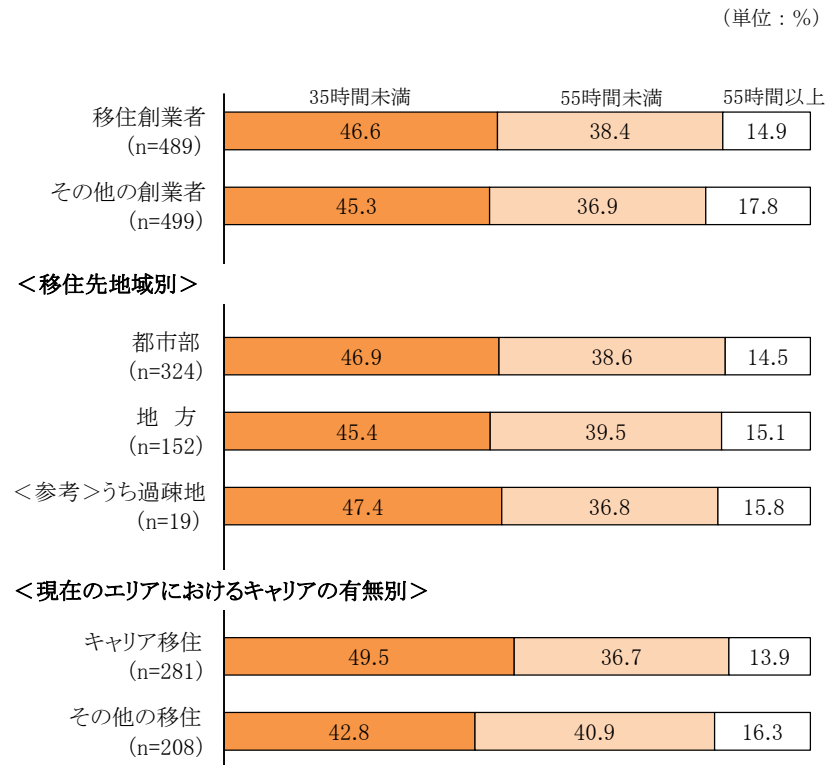
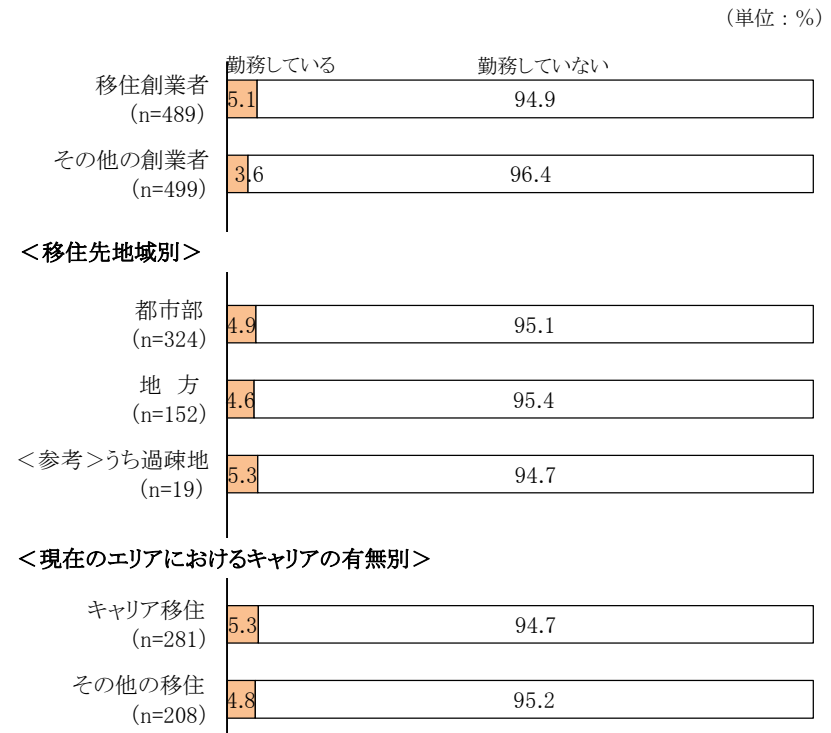


図-16 勤務している割合



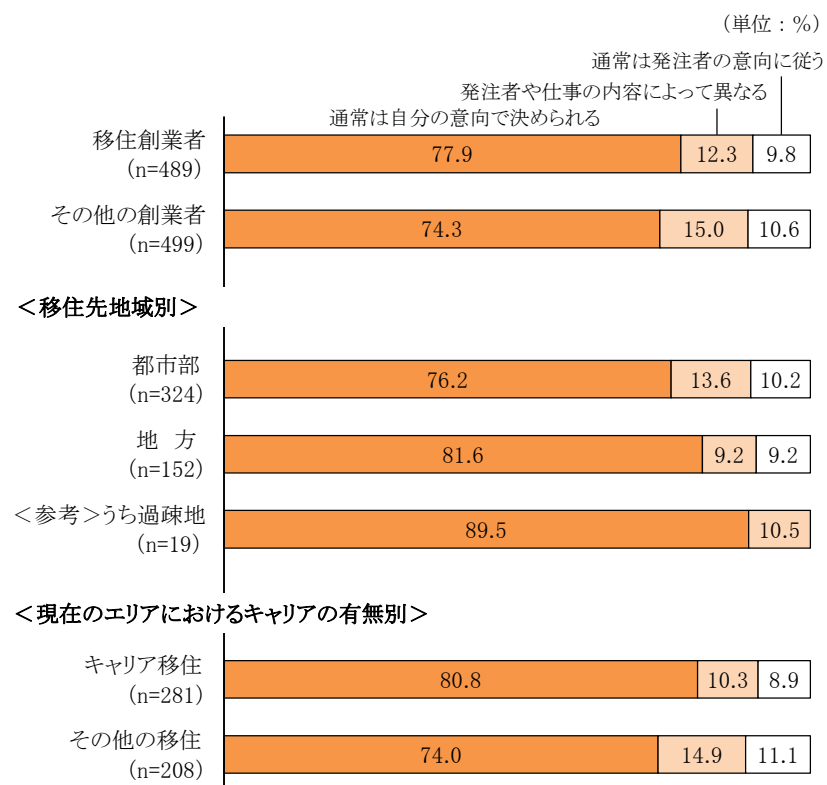
(注) 現在の職業について「事業経営者」のほかに「勤務者（役員）」「勤務者（正社員）」「勤務者（パート・アルバイトなどの非正社員）」のいずれかを選択した創業者の割合。

～移住創業者が仕事をする際の裁量は、地方のほうが都市部よりも大きい～

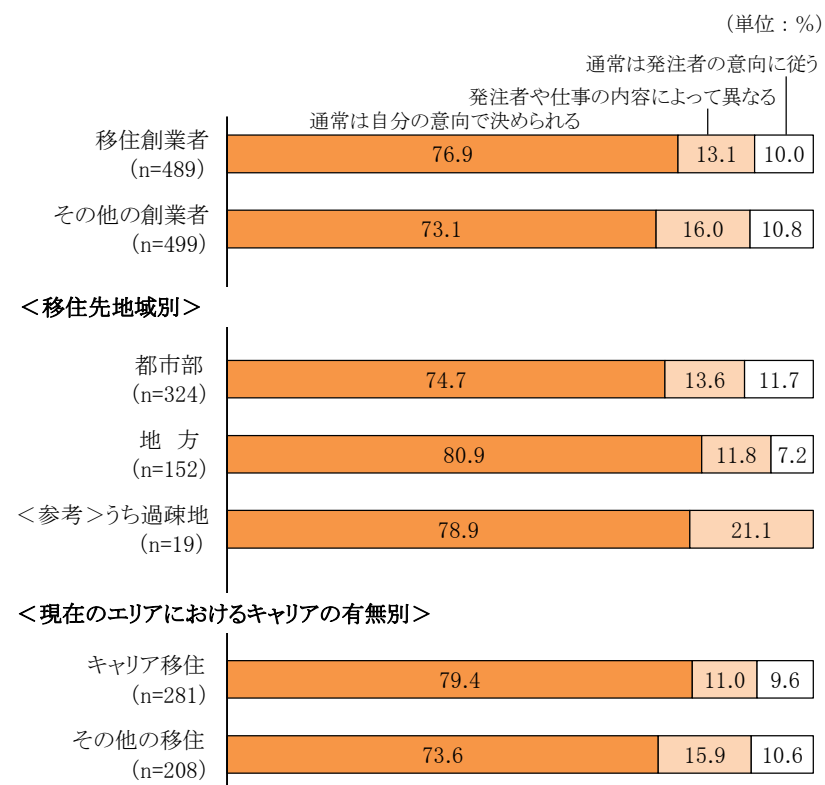
- 仕事や作業を行う場所を「通常は自分の意向で決められる」割合は、移住創業者では77.9%と、その他の創業者（74.3%）を上回る（図-17(1)）。移住創業者を地域別にみると、地方（81.6%）のほうが都市部（76.2%）に比べて高い。キャリアの有無別にみると、キャリア移住（80.8%）のほうがその他の移住（74.0%）に比べて高くなっている。
- 仕事や作業を行う時間についても、「通常は自分の意向で決められる」割合が移住創業者で76.9%とその他の創業者（73.1%）より高く、同割合は地方（80.9%）が都市部（74.7%）より、キャリア移住（79.4%）がその他の移住（73.6%）より高くなっている（同(2)）。

図-17 仕事や作業を行う際の裁量

(1) 場所の裁量



(2) 時間の裁量



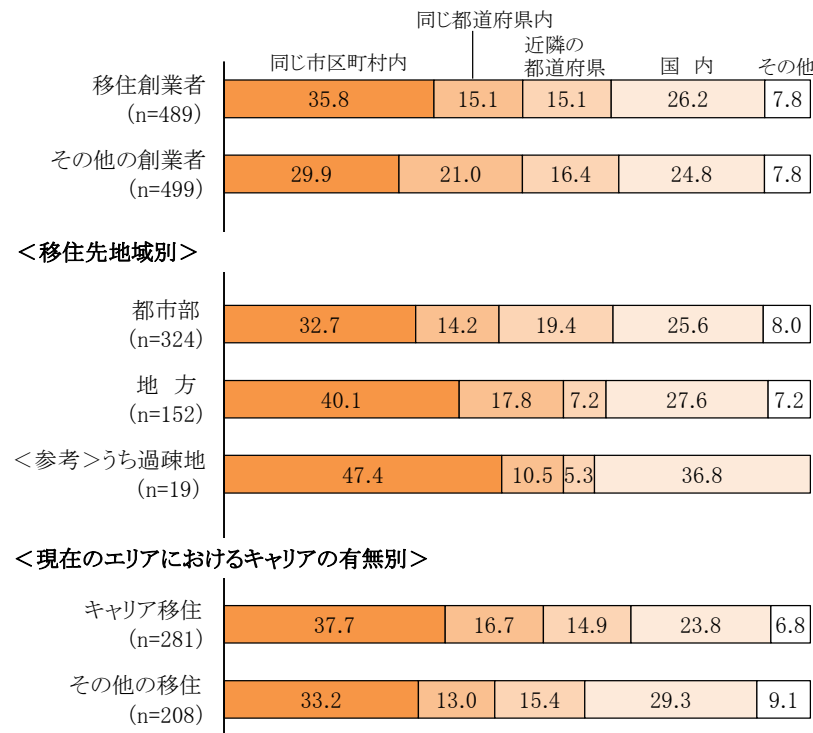
6 移住した地域との関わり方

～地方の移住創業者のほうが、都市部の移住創業者よりも「同じ市区町村内」を商圈にしている人が多い～

- 商圈が現在のエリアと「同じ市区町村内」である移住創業者は35.8%と、その他の創業者（29.9%）に比べて多い（図-18）。移住創業者を地域別にみると、地方では「同じ市区町村内」の割合が40.1%に上る。一方、都市部では「近隣の都道府県」の割合（19.4%）が地方（7.2%）に比べて高い。また、キャリアの有無別にみると、キャリア移住のほうが「同じ市区町村内」の割合（37.7%）がその他の移住（33.2%）よりも高くなっている。
- 仕入先についての方針を「地元からの仕入れに特化している」または「なるべく地元で仕入れるようにしている」とする割合は、移住創業者、その他の創業者ともに2割弱となっている（図-19）。移住創業者について地域別・キャリアの有無別にみると、地方のほうが都市部よりも、キャリア移住のほうがその他の移住よりも同割合は高い傾向がみられる。

図-18 商 圏

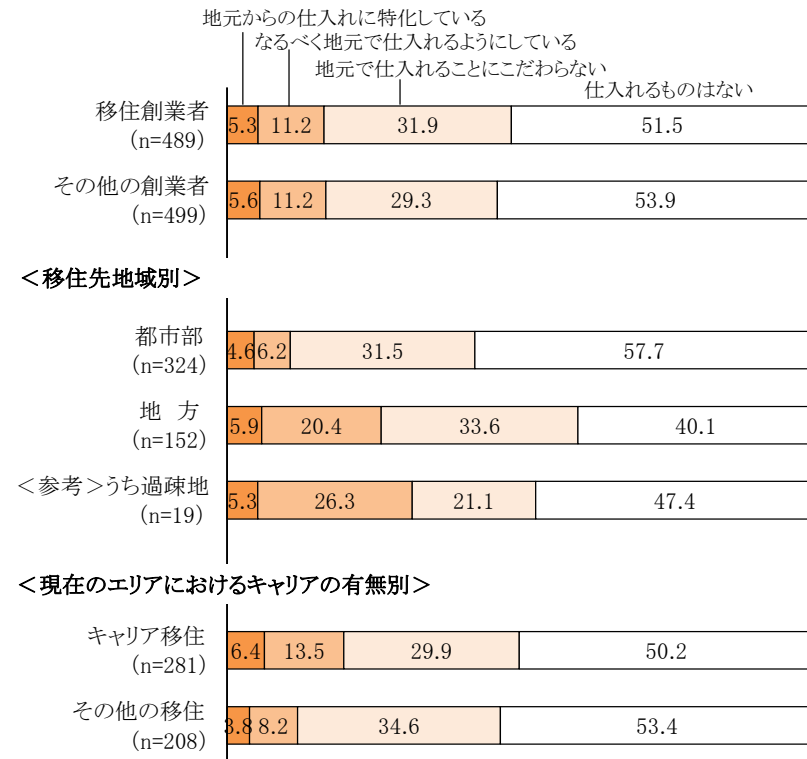
(単位：%)



(注) 「その他」は「海外」「国内外」の合計。

図-19 仕入先についての方針

(単位：%)



～地域に「なじめている」移住創業者は、地方よりも都市部のほうが多い～

- 事業を営んでいる地域に「なじめている」との回答割合は、移住創業者では32.3%とその他の創業者（37.7%）に比べて低い（図-20）。「なじめていない」は移住創業者で7.2%と、その他の創業者（4.4%）を上回る。地域別では、地方の移住創業者のほうが都市部よりも「なじめている」割合が低い（順に27.6%、33.6%）。キャリアの有無別では、キャリア移住は「なじめている」割合（34.2%）がその他の移住（29.8%）より高くなっている。
- 現在のエリアに経営の相談相手が「いる」割合は、移住創業者では34.4%とその他の創業者（42.7%）に比べて低い（図-21）。地方の移住創業者のほうが、都市部よりも「いる」割合（順に38.8%、32.1%）は高い。また、キャリアのある移住創業者のほうがその他の創業者よりも「いる」割合（順に33.8%、35.1%）は低い、 「まったくいない」割合はその他の創業者で39.4%と高い。

図-20 事業を営んでいる地域になじめているか

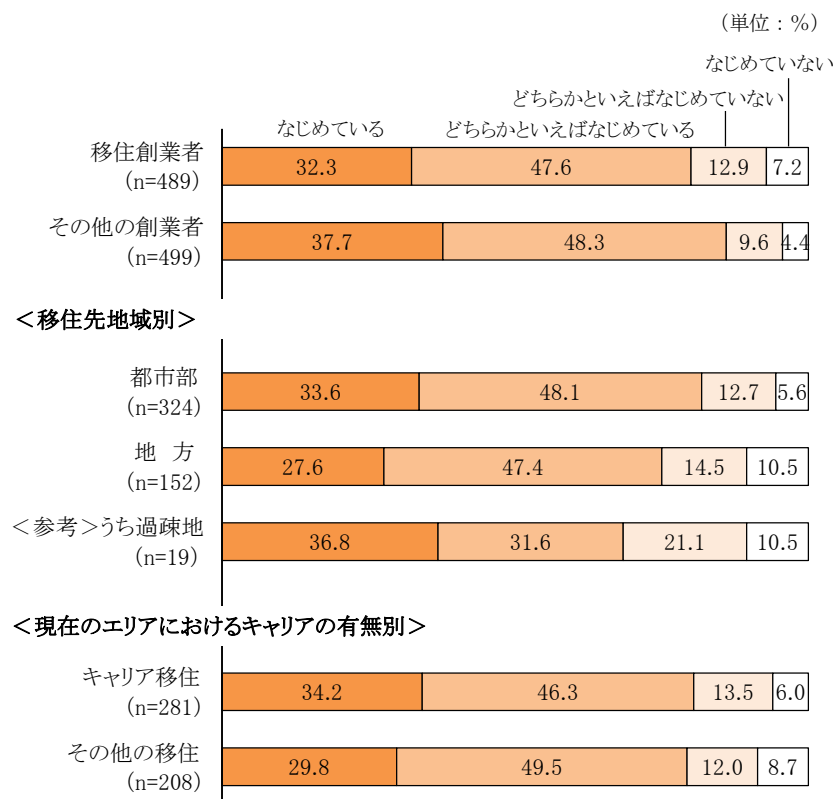
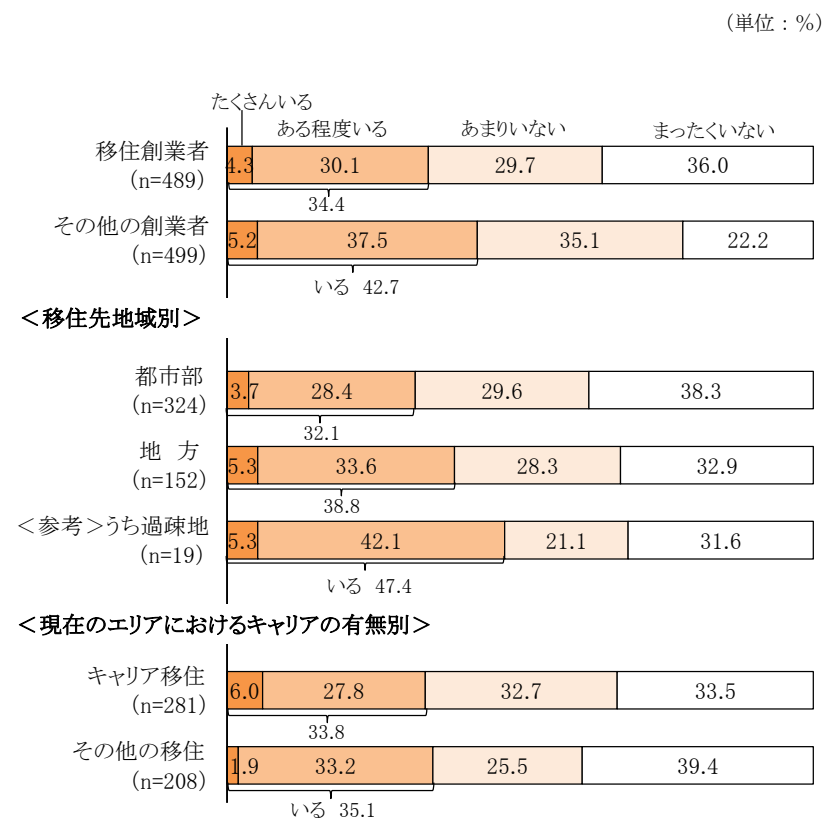


図-21 現在のエリアに経営の相談相手はいるか



7 事業のパフォーマンス

～キャリア移住のほうがその他の移住よりも平均月商は低い～

- 平均月商は、移住創業者、その他の創業者ともに「50万円未満」の割合（順に63.6%、62.0%）が最も高い（図-22）。移住創業者を地域別・キャリア別に比べると、地方のほうが都市部よりも、キャリア移住のほうがその他の移住よりも、平均月商が低い層が多くなっている。
- 採算状況を見ると、移住創業者、その他の創業者ともに6割超が「黒字基調」となっている（図-23）。地域別では、地方の移住創業者のほうが、都市部に比べて「黒字基調」の割合（順に61.2%、67.3%）が低くなっている。キャリアの有無別では、キャリア移住で「黒字基調」の割合（60.9%）がその他の移住よりも10ポイント以上低くなっている。

図-22 平均月商

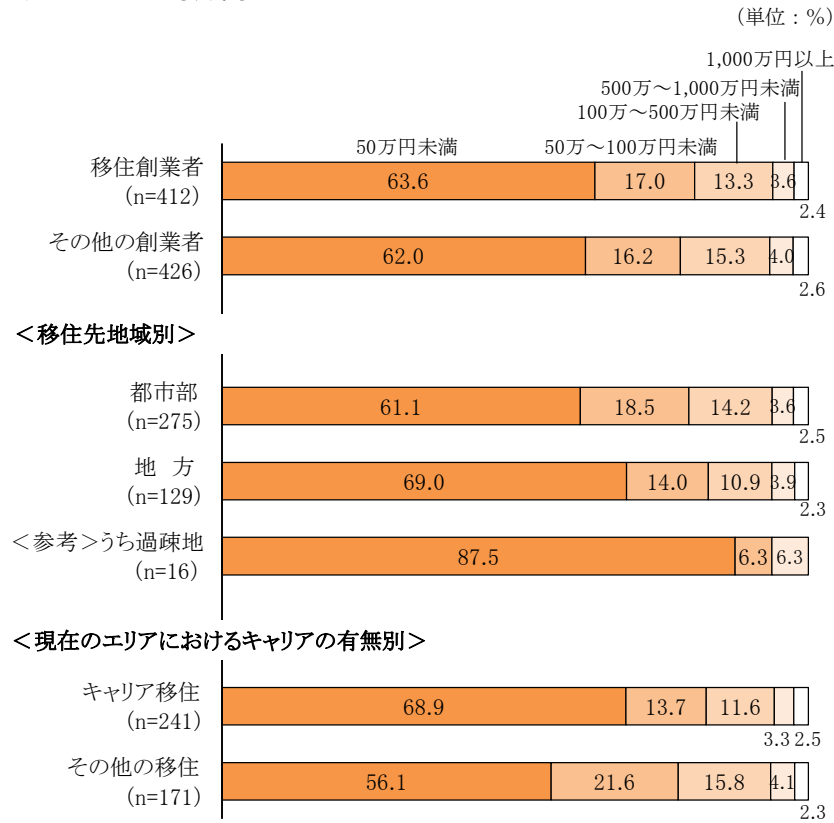
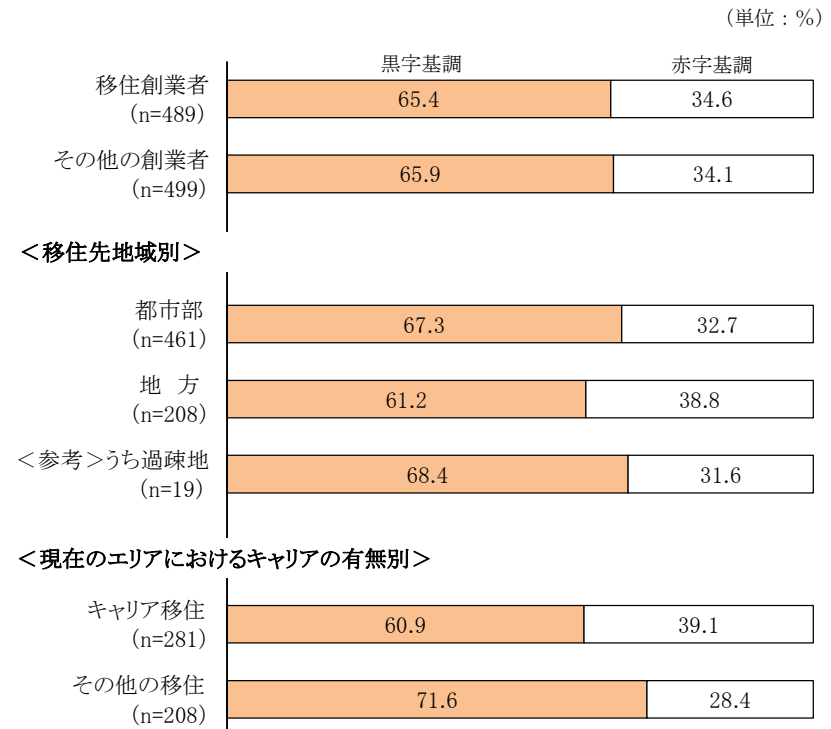


図-23 採算状況



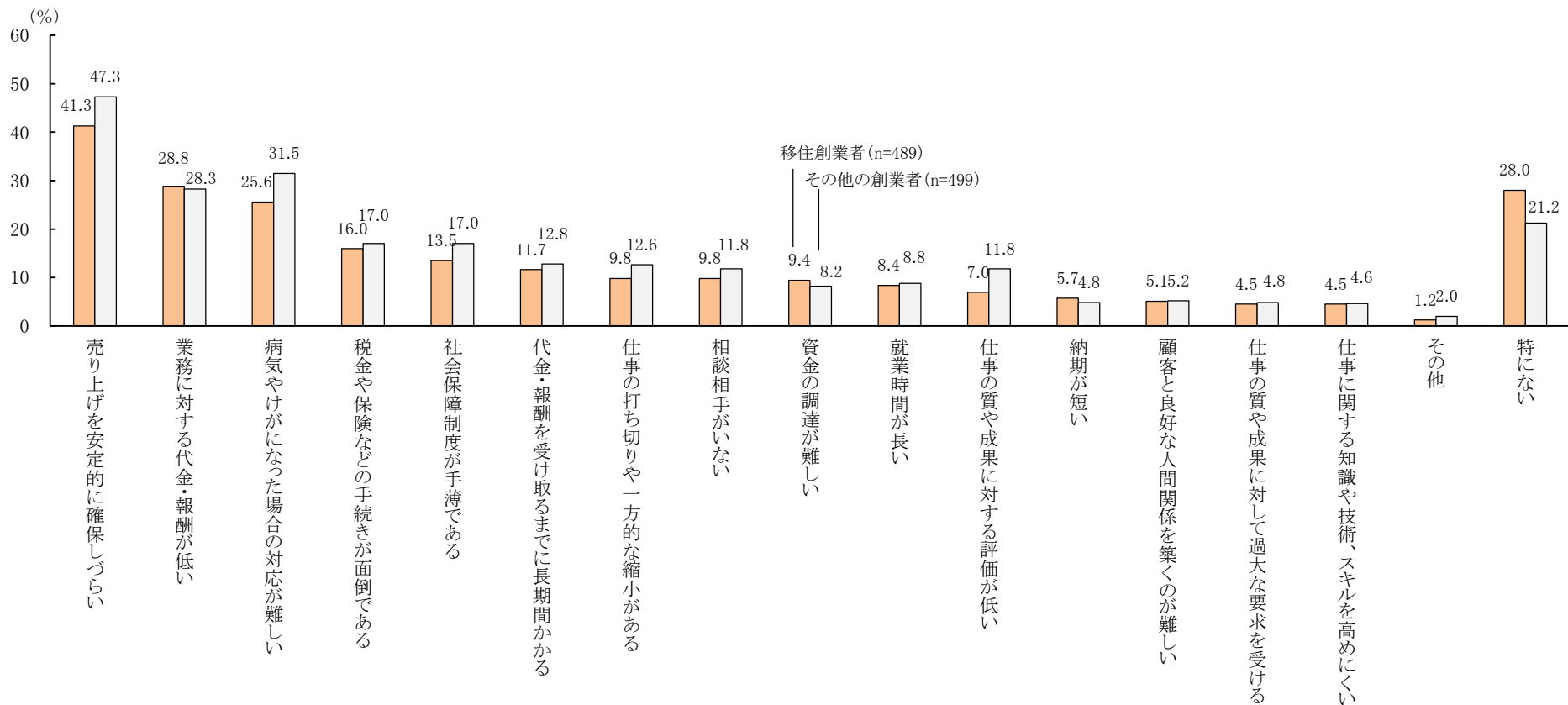
(注) 「わからない」「答えたくない」と回答した人を除いて集計した。

～4割の移住創業者が売り上げの安定的な確保を問題に感じている～

○ 移住創業者が事業を行ううえで問題だと感じていることは、「売り上げを安定的に確保しづらい」が41.3%と最も多く、「業務に対する代金・報酬が低い」が28.8%と続く（図-24(1)）。その他の創業者と比べると「資金の調達が難しい」（9.4%）、「納期が短い」（5.7%）などの回答割合が高く、「特にない」も28.0%と多い。

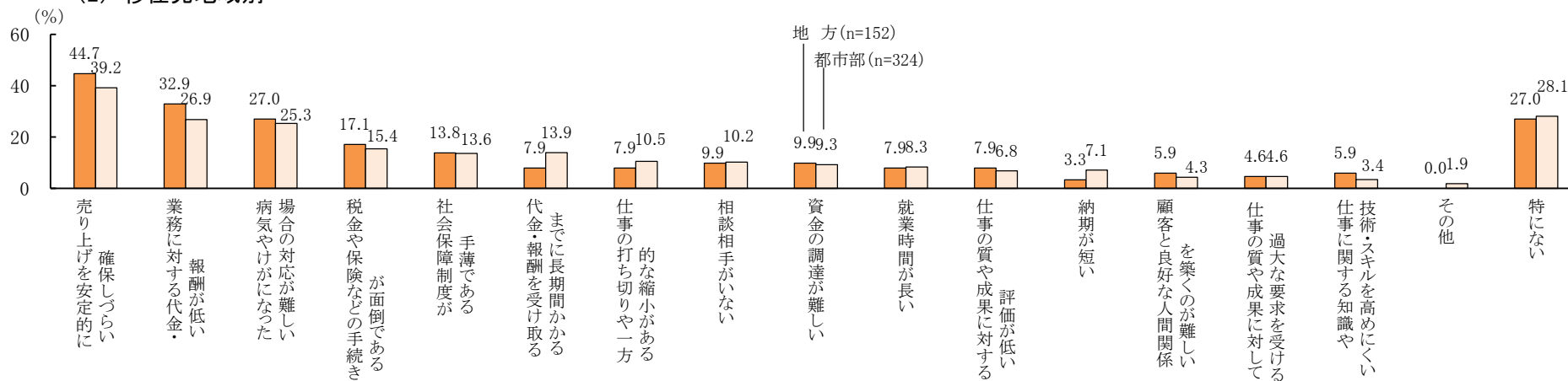
図-24 事業を行ううえで問題だと感じていること（複数回答）

(1) 移住創業者・その他の創業者

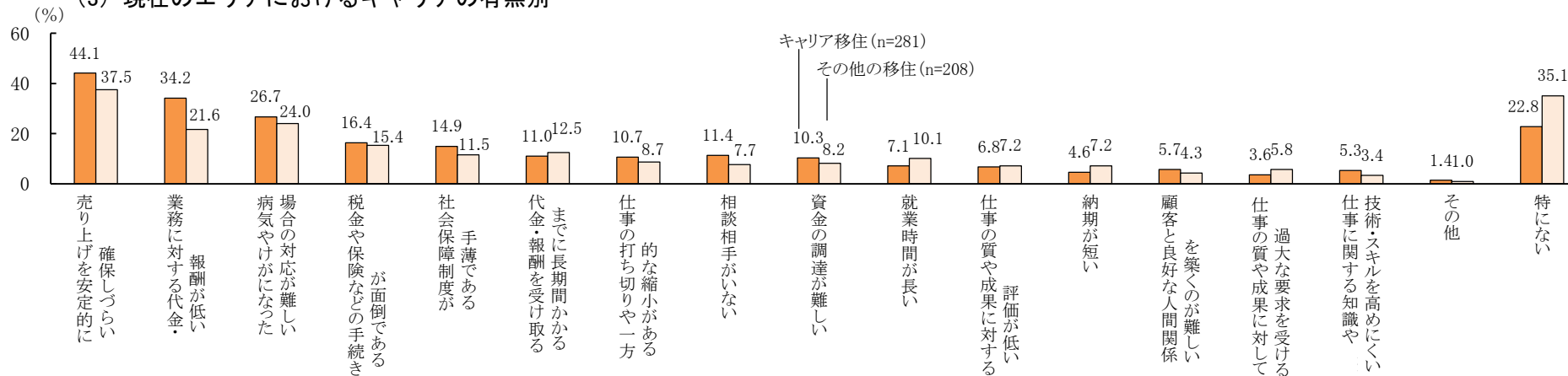


- 移住創業者について地域別にみると、「売り上げを安定的に確保しづらい」（地方44.7%、都市部39.2%）、「業務に対する代金・報酬が低い」（同32.9%、26.9%）などで地方のほうが都市部よりも回答割合が高くなっている（図-24(2)）。
- キャリアの有無別では、「売り上げを安定的に確保しづらい」（キャリア移住44.1%、その他の移住37.5%）や「業務に対する代金・報酬が低い」（同34.2%、21.6%）などで、キャリア移住のほうがその他の移住に比べて回答割合が高い（図-24(3)）。

(2) 移住先地域別



(3) 現在のエリアにおけるキャリアの有無別



～地方の移住創業者のほうが、都市部に比べて定住の意向が強い～

- 将来の生活に対する不安を「大いに感じる」との回答割合は、移住創業者では16.6%と、その他の創業者や移住勤務者、その他の勤務者に比べて低い（図-25）。移住創業者を地域別にみると、「大いに感じる」と「感じる」を合わせた割合は都市部（45.7%）と地方（44.8%）であまり差はみられない。
- この先も現在のエリアに住む予定である割合は、移住創業者では51.1%と、その他の創業者、移住勤務者、その他の勤務者に比べて低くなっている（図-26）。移住創業者を地域別にみると、地方では「その予定」が55.3%と、都市部（49.4%）に比べて多い。キャリアの有無別では、「その予定」の割合はキャリア移住（55.5%）がその他の移住（45.2%）を上回っている。

図-25 将来の生活に対する不安

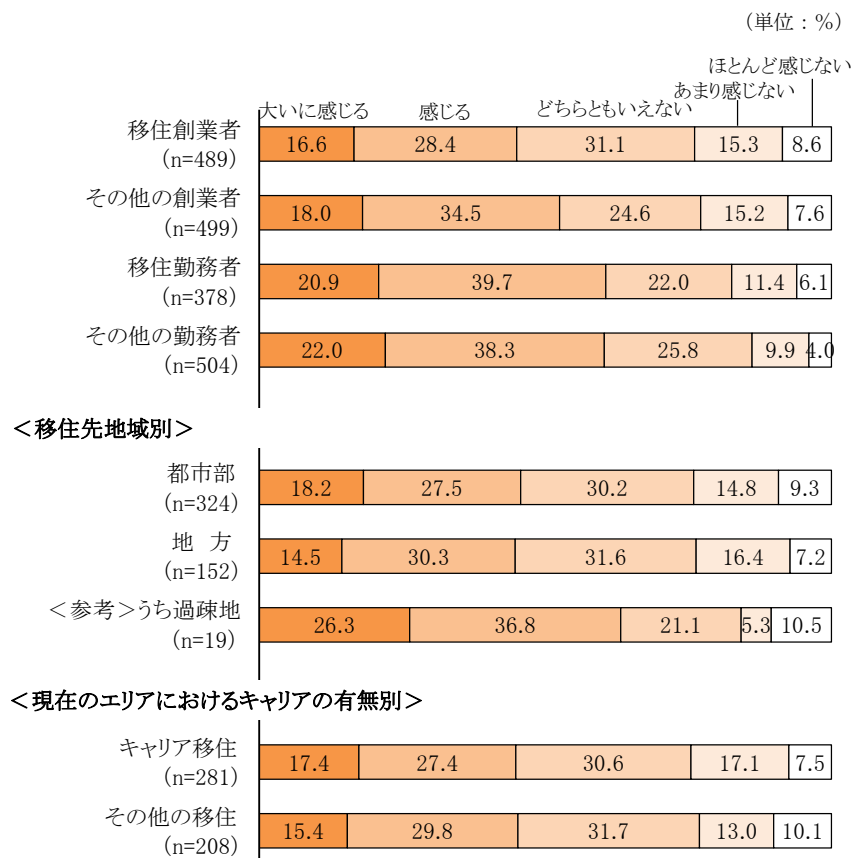
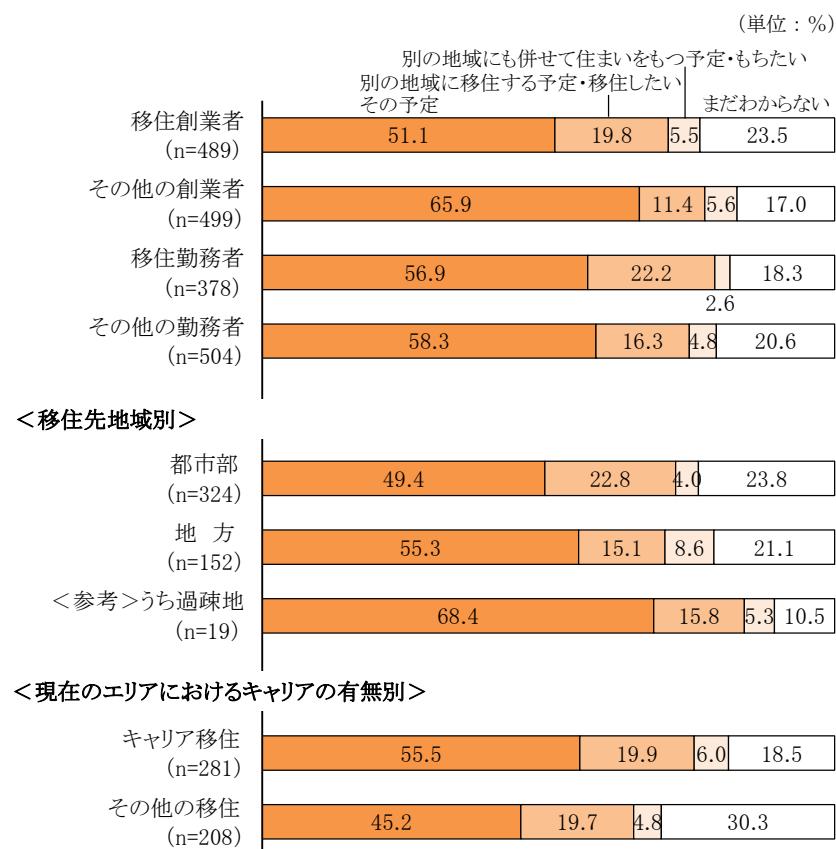


図-26 この先も現在のエリアに住む予定か

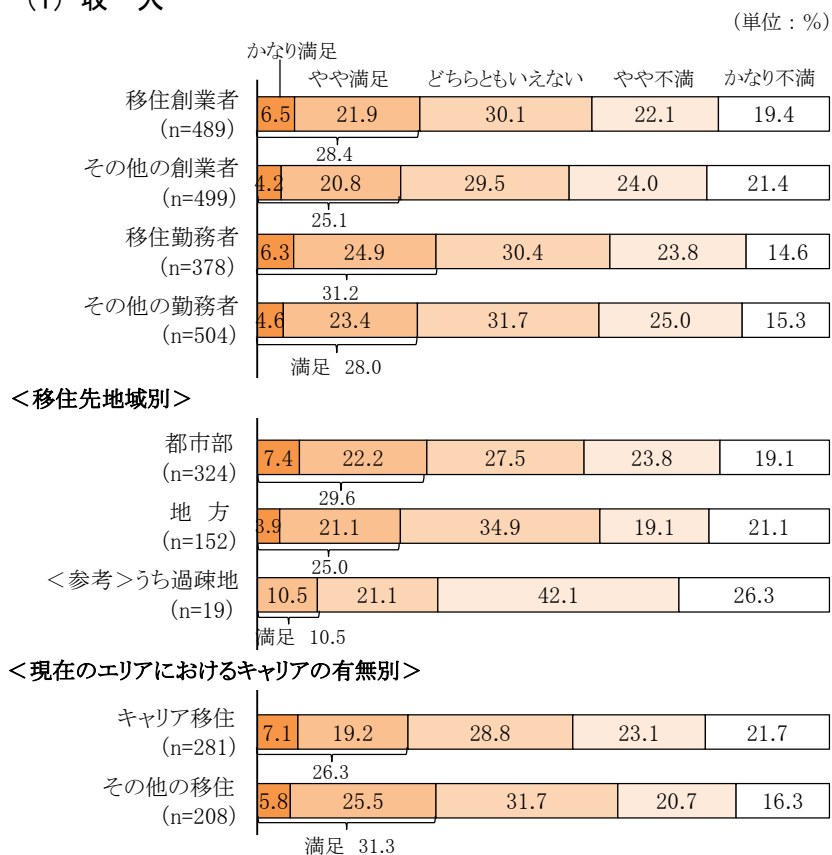


～移住創業者の総合的な満足度は、4類型のなかで最も高い～

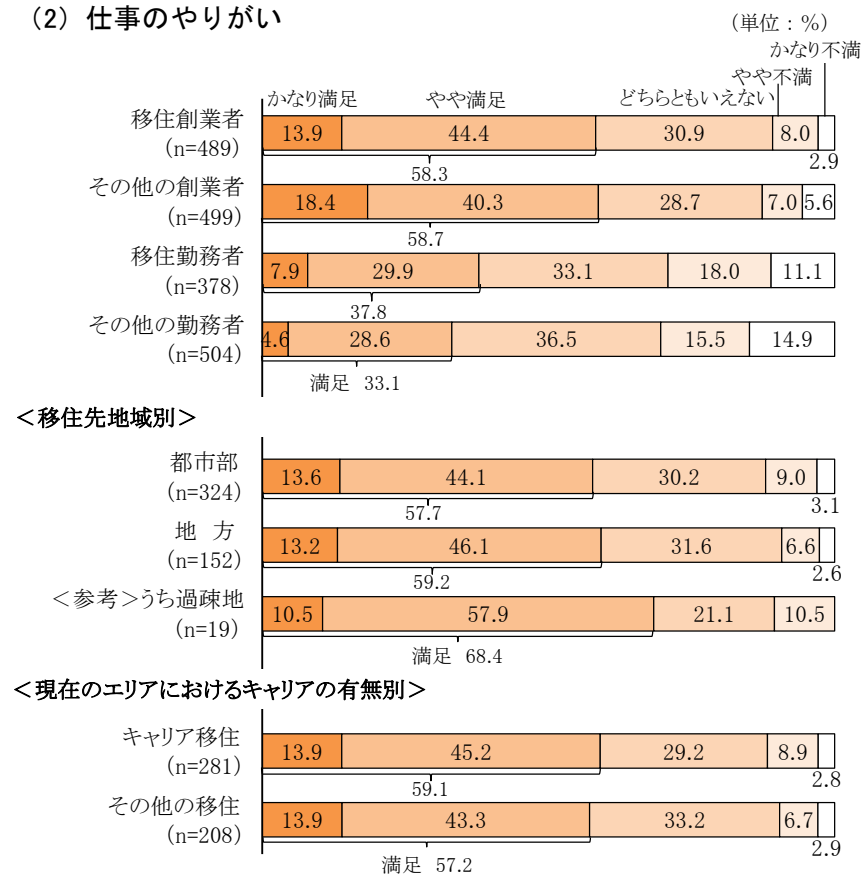
- 収入に対する満足度をみると、「かなり満足」「やや満足」ともに移住創業者（順に6.5%、21.9%）のほうがその他の創業者に比べて回答割合が高い（図-27(1)）。移住勤務者をみても、「かなり満足」と「やや満足」の合計である「満足」の割合は、その他の勤務者より高くなっている。移住創業者を地域別にみると、地方に比べて都市部のほうが「満足」（29.6%）の割合が高い。
- 仕事のやりがいに対する満足度は、移住創業者とその他の創業者で、移住勤務者やその他の勤務者に比べてかなり高く、「満足」の割合は6割に近い（同(2)）。移住創業者を地域別・キャリアの有無別にみても、満足度に大きな差はみられない。

図-27 満足度

(1) 収入

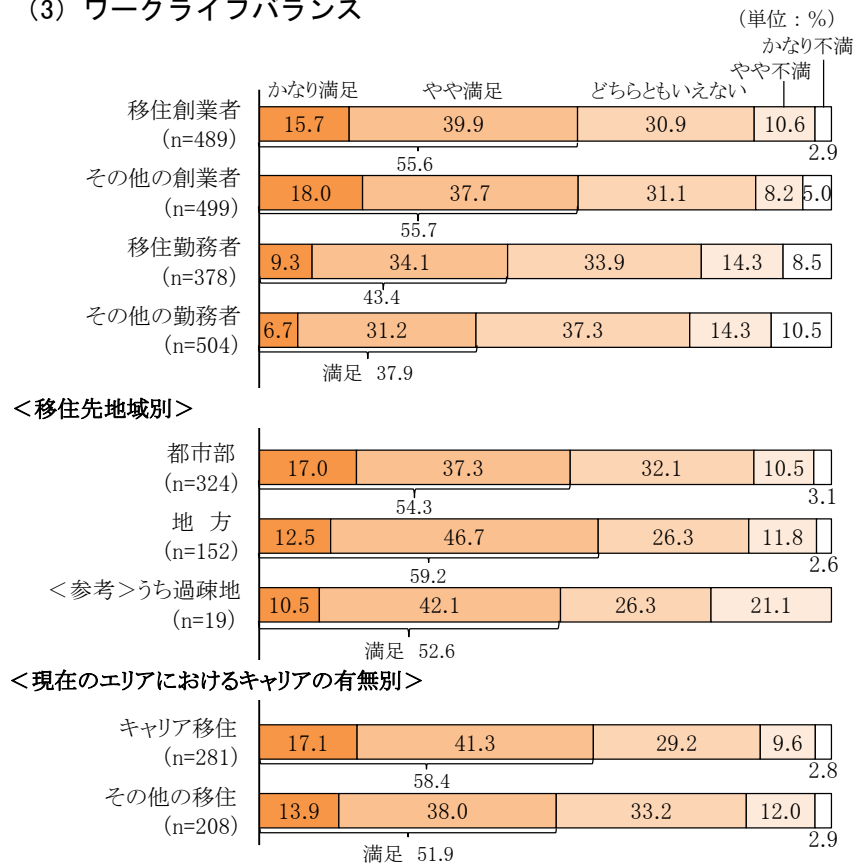


(2) 仕事のやりがい

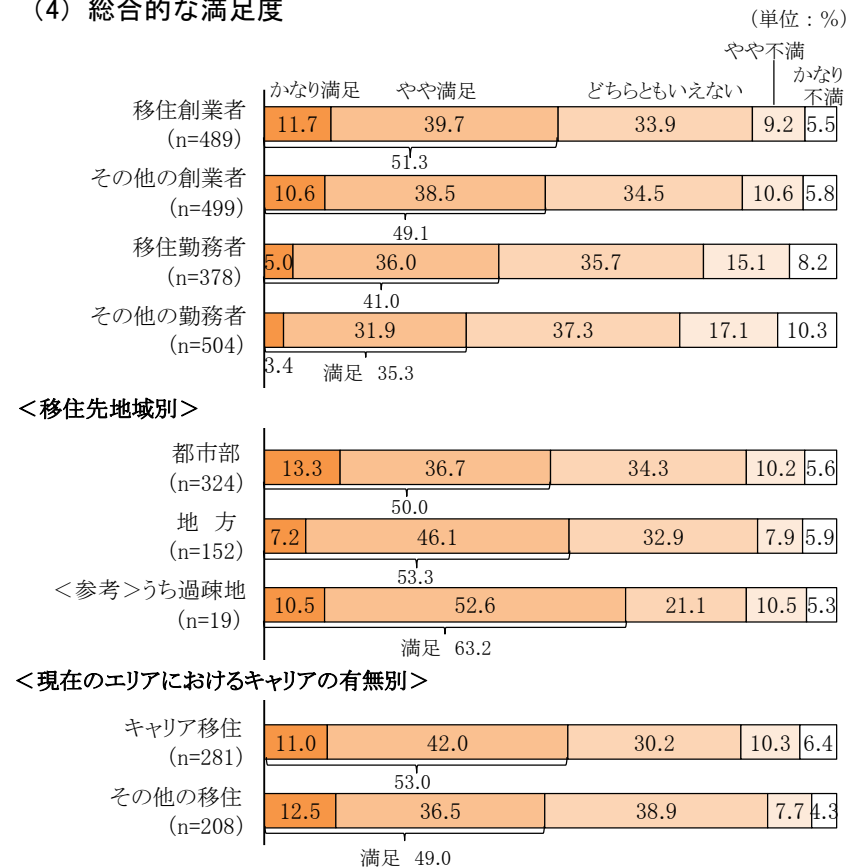


- ワークライフバランスに対する満足度をみると、移住創業者とその他の創業者は「満足」の割合がいずれも55%台で、移住勤務者とその他の勤務者に比べてかなり高い（同(3)）。移住創業者を地域別・キャリアの有無別にみると、「満足」の割合は都市部（54.3%）よりも地方（59.2%）のほうが、また、その他の移住（51.9%）よりキャリア移住（58.4%）のほうが高くなっている。
- 総合的な満足度をみると、移住創業者は「満足」の割合（51.3%）が4類型中で最も高い（同(4)）。地域別・キャリア別にみると、「満足」の割合は、都市部より地方（順に50.0%、53.3%）、その他の移住よりキャリア移住（順に49.0%、53.0%）のほうが高くなっている。

(3) ワークライフバランス



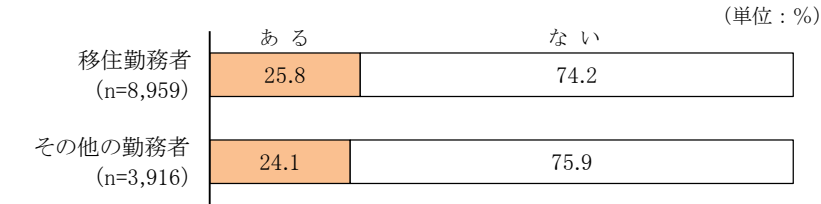
(4) 総合的な満足度



8 地方や移住創業への関心
 ～地方へ「移住したい」と思う都市部在住者は、移住勤務者や移住創業者に多い～

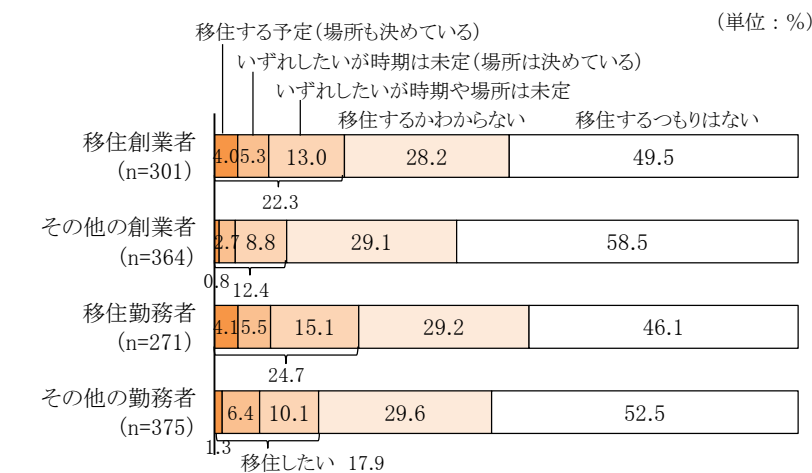
- 移住勤務者とその他の勤務者に対して起業への関心を尋ねると、関心が「ある」割合は移住勤務者が25.8%、その他の勤務者が24.1%となっている（図-28）。
- 現在の生活エリアが都市部の人に対し、地方へ移住したいと思うかを尋ねたところ、「移住したい」は高い順に移住勤務者で24.7%、移住創業者で22.3%、その他の勤務者で17.9%、その他の創業者で12.4%となった（図-29）。
- 「移住したい」と回答した人の年齢をみると、移住勤務者とその他の勤務者では「29歳以下」の割合（順に16.4%、17.9%）が移住創業者やその他の創業者に比べて高くなっている（図-30）。
- 起業に関心があり、かつ地方へ「移住したい」移住勤務者とその他の勤務者のうち、地方に移住した際に起業する「予定である」人は、順に22.4%、22.2%となった（図-31）。

図-28 起業への関心



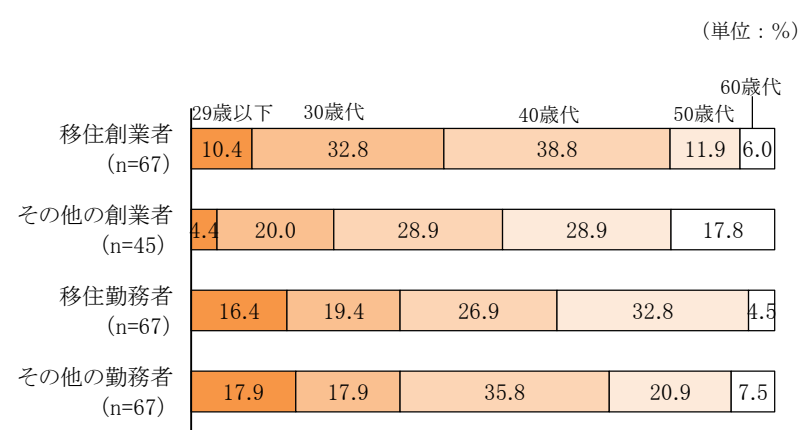
(注) 事前調査による結果。

図-29 地方（過疎地を含む）へ移住したいと思うか



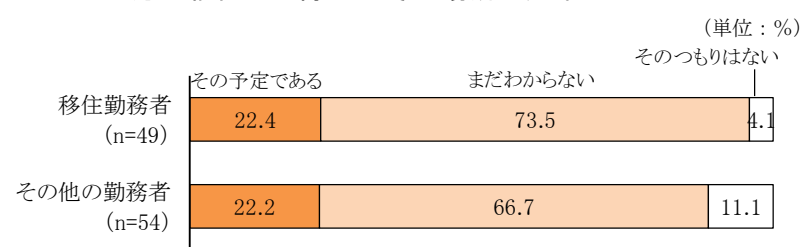
- (注) 1 現在の生活エリアが都市部の人に尋ねている（以下同じ）。
 2 図-29～31における「地方」は、三大都市圏の11都府県と全国の20政令指定都市を除く地域を指す。
 3 図-29、30における移住創業者は、創業5年超の回答者を除く。

図-30 地方（過疎地を含む）へ移住したいと思う人の年齢



(注) 図-29で「移住したい」と回答した人について集計している。

図-31 地方に移住した際にはその場所で起業したいか



(注) 図-28で起業に関心が「ある」と回答し、かつ図-29で地方へ「移住したい」と回答した人に尋ねている。

Ⅲ まとめ

○ 移住創業者の移住先は、地方よりも都市部が多い (pp.2-3)

「移住創業者」の移住元・移住先地域をみると、回答のあった466人のうち、地方から都市部へ移住した人が197人(42.3%)と最も多く、都市部から都市部も122人で26.2%を占める(表-1)。移住前から現在のエリアにゆかりのあった「キャリア移住」は、移住創業者の57.5%を占める(図-2)。

移住創業者は、「その他の創業者」に比べて「女性」「29歳以下」の割合が高い(図-3、4)。

○ 現在のエリアに移り住んだきっかけは「結婚」が多い (pp.5-6)

移住創業者が現在のエリアに移り住んだきっかけは「結婚」が15.3%と多く、「現在の事業を始めるため」(13.7%)が続く(図-7(1))。移住先地域が地方の移住創業者は、「現在の事業を始めるため」のほか、「親(義理を含む)との同居や近居」「子育て」の割合が相対的に高い(同(2))。また、現在のエリアにゆかりのない「その他の移住」では、「子育て」「配偶者の就職、転勤、転職」などの割合が相対的に高くなっている(同(3))。

○ 現在のエリアを拠点に選んだ積極的な理由は「交通の便がよいから」「自分の郷里だから」が多い (pp.7-8)

移住創業者が現在のエリアを拠点に選んだ積極的な理由としては、「交通の便がよいから」が18.3%と最も多く、次いで「自分の郷里だから」(17.2%)となっている(図-8(1))。移住先地域が地方の場合は、「自分の郷里だから」のほか「家族や親戚が住んでいる(いた)場所だから」の割合が相対的に高く、移住先が都市部の場合は「交通の便がよいから」に加えて「通勤が楽だから」「現在の事業を行うのに適した場所だから」の割合が相対的に高い(同(2))。

○ 「自由に仕事をしたかったから」起業した移住創業者が多い (p.9)

開業動機は、移住創業者、その他の創業者ともに「自由に仕事をしたかったから」(順に50.5%、53.7%)が最も多い(図-9(1))。そのほかの項目をみると、移住創業者では「収入を増やしたかったから」「時間や気持ちにゆとりが欲しかったから」「個人の生活を優先したかったから」「趣味や特技を生かしたかったから」などの回答割合が相対的に高い。

○ 事業の平均月商は小規模ながら、おおむね採算はとれている (p.20)

平均月商は、「50万円未満」の割合が移住創業者、その他の創業者ともに6割超と小規模な事業が多い(図-22)。採算状況は移住創業者、その他の創業者ともに6割超が「黒字基調」である(図-23)。移住創業者を移住先地域別にみると、地方のほうが月商が小さく「黒字基調」の割合もやや低い傾向にある。

○ 移住創業者の満足度は高い (pp.24-25)

収入に対して「満足」とする割合は、移住創業者で28.4%とその他の創業者よりもやや高い(図-27(1))。仕事のやりがいとワークライフバランスに対する「満足」の割合は、それぞれ58.3%、55.6%で、その他の創業者とほぼ同水準であった(同(2)(3))。移住創業者を地域別にみると、収入の満足度は都市部への移住、ワークライフバランスの満足度は地方への移住のほうがやや高くなっている。

○ 地方へ移住したいと思う都市部在住者は、移住勤務者と移住創業者に多い (p.26)

現在の生活エリアが都市部の人に地方へ移住したいと思うか尋ねたところ、移住創業者と「移住勤務者」では「移住したい」との回答が2割以上となり、その他の創業者や「その他の勤務者」に比べて多い結果となった(図-29)。移住経験者のほうが地方への関心が高いといえる。